

事業報告及びその附属明細書

2014年度

自 2014年4月1日 至 2015年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

アジア協会アジア友の会（JAFS）のめざすもの

I．基本理念（Vision）

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命（いのち）の価値を高める。

II．基本課題（Mission）

1. アジア及び世界の開発途上地域の困っている人々を助ける。
（特に、基本的生存条件が確保できない人々への生活支援を最優先する）
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成と推進

III．基本目標（Goal）

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命（いのち）の役割を果たす。

IV．基本活動（Program offered）

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

目次

事業報告			p 1
I. 開発支援事業			
A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給		p 7
B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上		p 9
	2. 教育設備・環境整備		
	3. HIV/AIDS 子ども感染予防		p 10
	4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援		
C. 貧困対策事業	1. マイクロクレジット支援・能力開発		
	2. 保健衛生指導・医療	(1) トイレ建設	p 12
		(2) 医療支援	
	3. 提携NGO運営助成		
D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林養育		p 14
	2. 環境改善・国際グリーンスカウト		
	3. 再生可能エネルギー資源活用・普及		p 15
E. サイクル・エイド	1. サイクル・エイド		p 16
	ワークキャンプ・視察		p 18
II. 国際交流事業			
A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援		p 21
	2. 海外ボランティア研修制度		
	3. 日本語教師派遣		
B. ネットワーク推進事業	1. 国際会議	(1) アジアネットワークセミナー	p 22
		(2) アジア・フレンドシップ夢基金	
		(3) アジア・ユースサミット	
	2. 国際体験交流（スタディ・ツアーなど）		p 23
	海外提携団体 AFSネットワーク		p 24
III. 災害・紛争の被災者に対する生活支援事業			
A. 災害等罹災者支援事業	1. 災害等罹災者支援事業	(1) 日本 東日本大震災	p 27
		(2) フィリピン 台風ハイエン	
IV. 普及啓発事業			
A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1) JAFSチャリティーバザール	p 28
		(2) 国際理解教育講座	
		(3) インド文化センター講座	
		(4) アジア文化理解講座	
		(5) インターンシッププログラム	p 29
		(6) 国際協力ボランティア講座	
		(7) 関連プログラム／その他団体協力	
	2. 地区活動	(1) エリア世話人会・全体地区世話人会	p 30
		(2) 地区世話人一覧	
		(3) 第1エリア	p 31
		(4) 第2エリア	
		(5) 第3エリア	p 32
		(6) 第4エリア	
		(7) 第5エリア	p 33
		(8) 第6エリア	
		(9) 第7エリア	p 34
		(10) 第8エリア	
		(11) 第9、第10エリア	p 35
	3. 広報	(1) アジアネット	p 36
		(2) JAFSプラザ	
		(3) ホームページ/メールマガジン	p 37
	4. プロジェクト支援	各ファミリーグループ・支援会	p 37
	5. 関連市民活動	(1) 関西ナショナル・トラスト協会	p 40
		(2) グリーンベイOSAKA	
		(3) 日本を良くする会	p 41
B. 環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト運動）		(1) 土と水と緑の学校	p 43
		(2) 美山 土と水と緑の自然学校	
		(3) 各部会活動	p 44
V. 運営管理			
A. 社員総会			p 47
B. 役員一覧			
C. 理事会			p 49
D. 常置委員会			
事業報告の附属明細書			p 50

2014年度 事業報告

2014年度は、2013年11月に観測史上最大の台風がフィリピンを襲い、その対応を4月末段階で一端終了させることが出来た。その後は、通常の活動に戻り、以下の事業を実施することが出来た。

開発支援事業に関しては従来通り「水」、「子ども」、「貧困対策」、「環境」及び「サイクル・エイド」の5事業を実施した。経済不況にもかかわらず前年度に近い多くの支援を実施することができた。

国際交流事業に関しては、1年ぶりに第24回アジア国際ネットワークセミナーを実施し、各国提携団体の活動評価及び実践の共有化が出来、AFS憲章を策定することが出来た。また、次世代の人材育成のためのアジア・ユースサミットをベトナムにて開催し、地域の環境資源を活かしたプロジェクトに若者が取り組むという試みも出来た。

災害等の罹災者支援事業に関しては、上述した通り、4月末段階にて大型の復興支援は一端終了した。その後、現地の要請に基づき、シェルター建設、所得向上支援などが実施出来た。東日本大震災に関しては、スタディツアーなどふれあいを主とする側面からの支援を行った。

普及啓発活動に関しては、従来の活動が中心であった。また、機関誌の充実化をはかるために、広報委員会を中心に様々な試みが実践された。

運営に関しては、公益社団法人認定以降取り組んできたガバナンス、コンプライアンスルールを更に強化することが出来た。以下は、2014年度の活動の詳細である。

I. 公益目的事業 1 開発支援事業

A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給を目指した井戸建設支援事業 -

1. 井戸・飲料水供給

2014年度はアジア7カ国（インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ミャンマー）の農村地域36ヶ所に飲料水のための井戸及びパイプライン59基を完成させることが出来た。安全な飲料水を含む、生活用水を確保することができた。昨今課題となっている、水資源の分配についてもこれまで育まれた村のリーダーや組合などを中心に、問題なく事業を進めることが出来た。

B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

1. 初等教育普及・向上事業

経済的貧困のために、教育の恩恵を受けることが出来ない子どもたちへ、初等教育の機会を得るための支援事業を行った。教育里親制度（教育資金の提供）を通じ昨年度同様、アジア5ヶ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の児童444名の教育支援を行なった。カンボジアにおいて、高校卒業試験の内容が大幅に変更され、授業内容とテスト内容に大きなギャップが生じ、落第者を出してしまった。中央政府を中心に出される教育政策の農村への浸透は非常に時間がかかるために、卒業を控えていた子どもたちにとっては災難であった。今後は、本プログラムを通して、教員の指導強化にあたりたいと考えている。

2. 教育設備・環境整備

2014年度は、ネパールにおいて教室不足の公立学校の校舎の増設1棟を行ったが、現在も建設中である。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

引き続き、タミルナドゥ州ディンディガル県、ナマカル県の2県のHIV/AIDSの児童及びその家族5世帯の支援を行った。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

(1) 栄養改善（ネパール）

2014年度も引き続き、ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約200名の生徒を対象に、

継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と、就学前クラスの子ども達への給食支援を実施した。併せて、栄養学習を上記学校のみならず本会のかかわりのある小学校6校の子どもたちを対象に実施。栄養知識の習得のための教材を学校に配布すると共に環境セミナーの際にも指導を継続実施している。これまで、JAFS ハルハロにより支援が行われてきた、ラリット福止センターは、自助にて運営が可能になったために、支援を終了した。

(2) ストリートチルドレンの保護（フィリピン）

路上生活から解放された元ストリートチルドレンの子どもたちが学校教育から立ち遅れないように就学から卒業までを支援すると同時に、環境教育を通したリーダーシップトレーニングによる意識啓発、劣悪な生活環境からトラウマを抱える子どもたちのメンタルケアを実施した。

(3) ミャンマー カチン州内戦孤児のための施設建設

昨年度に工事を着工したミャンマー、カチン州の内戦孤児のための施設（子ども村）が完成した。施設の内容は、子どもたちの生活を中心に設計され、学生寮、居間、図書室、教室などがあり、庭には家庭菜園用のスペースが確保され自給生活が送れるようになった。現在、28名の内戦孤児が安心して生活を送れるようになった。

C.『貧困対策事業』-自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導-

1. マイクロクレジット支援・能力開発

2014年度は、インド、カンボジア、フィリピンにおける農村の人々に対して所得向上支援を行った。特にフィリピンにおいては、マングローブ植林から漁場をつくるという試みが行われた。

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

ネパールにて、農村の人々の衛生改善のためのトイレ8基を建設した。トイレがなかったために大変不衛生な環境であったが、バイオガスプラント設置と同時にトイレ併設を勧める事により農村の人々の衛生改善に貢献することができた。

(2) 医療支援

2014年度は、インド、ネパールの農村において医療支援を行った。インドにおいては無医村の村に健康手帳と母子手帳の配布を行い、各村人が自らの健康状況を認識する機会を提供した。ネパールにおいては、山間地の村における妊産婦のフォローや必要な医療器具などの提供を行い、村人のよりどころを作ることが出来た。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化の為に、インド (RUDYA、BSVIA、HDSI、GSI)、カンボジア (KAFS)、スリランカ (SARVODAYA) の運営支援と活動強化を行った。KAFS においては、マイクロクレジットからの返済利息からタケオ州のスタッフ4名の給与を賄うことができ、少しずつではあるが、自立へと向かっている。

D.『環境事業』 - 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

1. 植林・水源涵養林養育支援

フィリピン (9,100 本)、ネパール (1,650 本) インドネシア (2,000 本)、カンボジア (6,000 本) において合計 18,750 本の植林を実施した。カンボジアは、2014 年度 6 月から雨が降らず、干ばつへと陥ったために、降雨を期待して植林された木々が、壊滅状況となった。気候変動によりますます自然災害が予測出来なくなった。

2. 環境改善・市民による環境保全活動（国際グリーンスカウト運動）

地球環境保全戦略の一環として 1986 年に発足した本会提唱の環境保全市民運動（通称、グリーンスカウト運動）は、現地提携団体を中心に様々な環境における啓発活動が行われている。2014 年度も継続して、インド、ネパールにおいて環境保全啓発活動が実施された。ネパールにおける小学生を対象にした環境セミナーは恒例となり、多くの子どもたちが自主的に環境問題に気づき、清掃活動などを実施することが出来るようになった。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールにおいてバイオガスプラント事業の名の下に、年々増加する燃料としての木材資源の消費を抑えるため、及び健康上の理由（煙による諸種の弊害、例、眼病の防止等）からバイオガス利用を各家庭に奨励している。薪以外に生活燃料を持たない貧農家族への共同利用奨励事業としている。2014 年度は、16 基のバイオガスプラントを設置することが出来、同時に設置後の使用状況確認や現状把握を行うと共に方向性の確認をすることが出来た。（ゆうちょ財団助成事業）

また、日本の電気工の専門家を派遣し、ネパールにてもソーラーパネルが学校に設置され、明るい電気の中で子どもたちが勉強を受けられるようになった。

E. サイクル・エコ事業

大阪府内の放置自転車の有効利用の一環として、再生自転車を必要としているアジアの開発途上地域に寄贈する事業。本年度は、カンボジアのタケオ州バティ県とキリヴォング県に 381 台、フィリピンのヌエバエシハ州カビアオ町に 350 台の自転車が寄贈された。主に“教育・健康・安全”のために有効活用され、それまで不可能だった通学や仕事の効率化、生活の改善を可能にし、青少年や女性を中心とした受益者達が自立への第一歩を踏み出せるようになった。（競輪の補助事業）

この他、各事業に関連して、ワークキャンプ（インドネシア、カンボジア、ネパール、フィリピン）を実施。各諸事業に伴い海外視察が実施された。

II. 公益目的事業 2 国際交流支援事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来の本会のネットワークを担う各国各部会の職員の研修、養成のために、奨学金支援を行っている。2014 年度は、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）にて実施されているコミュニティ・デベロップメント・コースに地元フィリピンから 5 名が研修を受けた。

2. 日本語教師派遣

日本語を通して、日本とアジアの交流を図るために日本語教師を派遣。2014 年度も継続して日本語教師の中島和子氏をインドネシア、バリ島のディアナブラ大学に派遣した。

B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

（1）アジア国際ネットワークセミナー

第 24 回アジア国際ネットワークセミナーを、カンボジアのシェムリアップ市において実施することが出来た。アジア各国から 52 名が参加し、各 AFS チャプターの情報共有と AFS ネットワークの課題に議論を深めることが出来た。

（2）アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。2014 年度は、

AFS/ICO の事務局長にフィリピンのジーナヤップ氏を任命し、基金の広報強化に努めた。集まった資金の使途は、上記のネットワークセミナー及び、インド、ナグプールのチャイルドアカデミーの給食支援金に充てた。

(3) アジア・ユースサミット

地球の未来に向かって持続可能な地域社会作りを通して様々な社会的課題解決に向けて実践する若者を育成するために、ベトナムにて、第 3.5 回アジア・ユースサミットを開催した。「持続可能なコミュニティモデルづくりを目指して」をテーマとし、ベトナム、キエンザン省の環境資源であるレピロニア草を活かし、どのようなコミュニティモデルを作ることができ、私たちがどのように貢献できるかを話し合うことができた。(独立行政法人国際交流基金 助成事業)

2. 国際体験交流 (スタディツアー等)

2014 度は、上述のユースサミットを含めベトナム、フィリピンの 2 カ国にて実施され、24 名が参加した。

Ⅲ. 公益目的事業 3 災害罹災者に対する生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) 東日本大震災災害復興支援事業

今年度も、引き続きみなさん館や味噌工房を訪れて、地元の方々とふれあい、地元のものを食べ、復興に向けて歩みだしている人々を応援する、「南三陸を訪れる復興支援スタディツアー」を実施した。(仙台市、南三陸町、気仙沼市、一関市、松島市) 2014 年度は、計 1 回のみ実施した。

(2) フィリピン台風「ハイエン」緊急・復興支援事業

2013 年 11 月 8 日に発生した観測史上最大の台風「ハイエン」の被災者支援として、シェルター建設、所得向上のための水耕栽培支援などを実施した。新たに防災研修センター作りのための検証も行われた。

Ⅳ. 公益目的事業 4 普及啓発事業

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民が参加できるよう、色々な形のチャリティプログラムを展開している。2014 年度も恒例の JAFS チャリティバザールを年 2 回実施。その他、それぞれ各地域や各ファミリーグループの支援趣旨のもと、チャリティコンサートが実施された。2014 年度は、はじめて AFS マニラの主催にてラグズ&ジェラのチャリティコンサートがマニラ市にて実施され、好評を得た。

(2) 国際理解教育講座

国際理解教育講座として、学校及び団体へ講義を行った。2014 年度は大学や労働組合への講義の依頼が増え、より幅広い社会層の人たちへ講義を行うことができた。(講師派遣のべ 16 か所、参加生徒・団体員数 1,606 名) その他、学校の委託により授業を受け入れ、国際理解に対する講義を実施した (2 校 33 名)

(3) アジア文化理解講座

2014 年度も引き続き、アジア家庭料理教室を中心に料理を通した、アジアの文化理解に努めた。毎月アジアの様々な国の「家庭」料理を取り上げ、アジア 13 地域 19 回の教室を

行い、のべ 275 名の参加があった。

(4) インターンシップ制度

2014 年度は、神戸学院大学、甲南女子大学、大阪経済大学から、計 6 名のインターンシップ生を受け入れた。本会へのインターンシップでは、事務局内の活動及び国内の様々なプログラムに参加、海外プロジェクト啓発活動など様々な実習を通して、ボランティアそして国際協力について学び事後活動につながる研修を行った。

(5) 関連プログラム

関係団体と連携の中、理事、評議員、幹事、講師、運営委員として協力。来場者 16,500 名あった関西最大の国際協力のお祭り“ワン・ワールド・フェスティバル”には実行委員会メンバーとして実施に協力した。その他、ネットワーク NGO の JANIC、関西 NGO 協議会、関西国際交流団体協議会、JPF などと引き続き連携を行った。

2. 地区活動

本会の活動をより多くの人たちに広めていくために本年度も全国各地域にいる本会地区世話人を中心に広報、ぞうすいの会、ウォーカソン、環境活動を基本プログラムとして啓発活動が行われた。

3. 広報

本会の活動機関誌「アジアネット」を 4 回発行し、本会の事業報告及び海外の情報などを提供した。「JAFS プラザ」に関しては、2 回発行により本会の国内における啓発活動の紹介を行った。

(1) 機関誌

アジアネットを 4 回発行、JAFS プラザは 2 回発行したが、2014 年度冬号からアジアネットと統合し、1 誌年 4 回の発行となった。

(2) インターネット

ホームページの定期的更新が定着化し、ネットからの参加者も増加してきた。

4. プロジェクト支援（支援会・ファミリーグループ）

各支援会、ファミリーグループなど 19 グループが様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を精力的に展開していった。毎週金曜日に本会の事務局をオリエンタル色に染めていた JAFS ハルハロの F ランチがなくなったのが非常に残念なニュースであった。

5. 関連市民活動

関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の元、活動が活発に行われた。

B. 環境保全・啓発教育事業

環境保全・教育を中心に次世代の人材育成のために下記の事業が実施された。

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は、31 回を大型台風と共に迎えた。日頃のリーダー研修の成果もあり、本部、リーダーのボランティアを中心に避難からプログラム実施まで迅速に行われた。また、タイから大学生の参加が 2 年目となり、言葉の壁を乗り越え、充実した「土と水と緑の学校」を迎えることができた。参加者数は、ボランティアを含め 120 名。

(2) 美山「土と水と緑の自然学校」開催

美山「土と水と緑の自然学校」京都府南丹市美山町にて開催した。「農村と都市の交流」

を基本とし、自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通して自然と人、人とコミュニティの繋がりを体感し、学ぶ実践型のプログラムを実施した。タイのチェンマイ県のメイジョー大学の学生もプログラムに加わり、自然との交流、都市・農村との交流、国際交流、そして防災について子どもたちに多くの学びを供給することが出来た。参加者数は、合計 62 名となった。

(3) 国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト（“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する）活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。現在、国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方と 3 地域に部会を持つ。GS 大阪は毎週水曜日に例会を開催、エコキャンプや美山、新宮の土と水と緑の学校、環境プログラムの開催、リーダー研修を行うと同時に、里親として教育支援を行った。GS 吹田は、毎月 1 回例会と吹田市の糸田川清掃活動を継続、及び恒例の無人島キャンプを実施した。GS 寝屋川・枚方は、第 2 エリアの「北河内緑とふれあう会」のメンバーとしてその活動に参加した。

(4) ウォークソン

“地球の水と緑を守る”ためのチャリティウォークソンは、地区活動として実施された。本年もボランティアの方々が地域の名所を探し、企画を立て実行した。

V. 運営管理

本年度も、理事会（4 回）、常任理事会（5 回）を開催した。事業、運営の課題について話し合い、各常置委員会も開催した。

以上を以て 2014 年度の活動事業報告の概要としたい。

I. 開発支援事業

I. 開発支援事業

I-A. 水事業

1. 井戸・飲料水供給

(2015年3月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2014年度完成	累積
インド	2	459
インドネシア	-	44
カンボジア	21	359
スリランカ	5	95
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	15	168
バングラデシュ	4	147
パキスタン	-	8
フィリピン	9	369
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	3	22
ラオス	-	21
合計	59	1,782

●インド

RUDYA マハラシュトラ州ガッチロリ県 1基

露天式井戸 1基

ガッチロリ地区ラガジャタ村

HDSI アムラワティ県チャンドゥールバザール地区

ポンプ式井戸 1基

チャンドゥールバザールウェスト村

●カンボジア

KAFS タケオ州 21基

露天式井戸 21基

トレアン郡ブランベイマム地区トラパンベン村(2)

トレアン郡クバプ地区クダイルン村(5)

トレアン郡クバプ地区サモールルー村(4)

トレアン郡クバプ地区ポン・ロール村(5)

トレアン郡クバプ地区サモールクロム村

トレアン郡ロネアム地区ソフィー村

トレアン郡ロネアム地区ブレイ・プラブ村

トレアン郡ロネアム地区トラパンタム村(2)

※第29回、30回、31回、32回イオン労連カンボジア
ワーキングキャンプにて実施

※第4回オムロン労働組合カンボジアワークキャンプ

にて実施

●スリランカ

SARVODAYA スリランカ東部州 5基

露天式井戸 5基

アンパーラ県ディーガワッピヤ村

アンパーラ県デヒアトタカンディア・サマランテンナ村

アンパーラ県ティンビリゴッラ村

アンパーラ県ウエラガラ・ボタナ村

アンパーラ県12集落

●ネパール

AFS ネパール ネパール全域 15基

ポンプ式井戸 4基

ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村(2)

バグマティ県カブレランチョーク郡トゥクチャナラ村(1)

ナラヤニ県チトワン郡ラトナナガールモノハラ村(1)

簡易水道付集水タンク式井戸 1基

バグマティ県ラリトプール郡ボディケル村(1)

簡易水道付パイプライン式井戸 10基

バグマティ県シンドウパルチョーク郡ボテシパ村(10)

●バングラデシュ

BDP ジャマルプール県 4基

ポンプ式井戸 4基

ラウチャプーラ地区マスタバーラ村

ラウチャプーラ地区ドゥムルトーラ村

サイタンパーラ地区バルジュフーリ村

サイタンパーラ地区コネカンダ村

●フィリピン

KALIPI ヌエバエシハ州 8基

ポンプ式井戸 8基

ジャエン町マグサリシ村

ジャエン町ウラニンピタック村

ジャエン町パクール村

ジャエン町インブニア村

サンアントニオ町ティキウ村

カビアオ町セイントジョセフ村ガワドカリガ集落

カビアオ町パラシニアン村

カビアオ町サベス村

AFS-Virac, Catanduanes カタンドゥアネス州 1基

簡易水道付きポンプ式井戸 1基

I. 開発支援事業

サンアンドレス町アゴホ村

※第 11 回情報労連東海ブロック協議会のワークキャンプにて実施

●ミャンマー

MAFS エーヤワディ管区 1 基

ポンプ式井戸 1 基

クウィンサンゴン町ミッタ村

MAFS サガイン県 1 基

露天式井戸 1 基

ホマリン町コムンノム村

MAFS サガイン県 1 基

給水タンク式井戸 1 基

レイシ町モルバイラップ村

建設中の井戸 18 基

インド 2 基

カンボジア 0 基

スリランカ 0 基

ネパール 2 基

バングラデシュ 2 基

フィリピン 5 基

ミャンマー 5 基

ラオス 2 基



カンボジアにて完成した井戸



ミャンマーにて完成した給水タンク式井戸



スリランカにて完成した井戸



インドにて完成した井戸



ネパールにて完成した井戸

I. 開発支援事業

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

経済的理由のために教育を受けることができないという子どもたちの減少と就学による子ども達の教育向上をめざし、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子ども達を里子、日本側支援者は教育里親としてサポートするプロジェクトを実施している。

近年、教育が子ども達に与える有益性を親たちも理解し、農村部においても就学率が向上している。しかしながら、南アジア(インド、ネパール、バングラデシュ)においての女子への教育への理解が未だに不足しており、就学率、識字率共々未だに低い位置を占め、女子が得る教育がその後の結婚生活や子育てへの有効性や効果に対する理解は、これと変わりなく不足している。

また就学した子ども達の環境にも問題があり、教材不足、教育の質の向上、教員不足、両親の理解など様々な課題が山積みである。その改善にはコミュニティを巻き込んだ学校教育の確立を更に行っていく必要性がある。その上、高学年になると途中退学する子女は以前として多い。物事への理解、体力がつくと働き手として就職を優先する動きも多く自主退学を招いている。これは本会が支援している全5カ国に見られる傾向である。

本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。里親には対象の教育施設に通う子ども(里子)を紹介し、手紙などによる相互交流を行った。2014年度は444人の里子を支援、里親が心の支えにもなり里子たちの成績を良好な方向に導くことにも繋がっている。

アジア里親の会 里親決定状況 (2015年3月現在)

国名	2014年度里子数	里子累計数
インド	210	384
カンボジア	61	166
ネパール	126	214
バングラデシュ	30	183
フィリピン	17	20
合計	444	967

●インド

BSVIA JAFS 教育支援事業 135名

【カルナータカ州ビジャプーール県ブルナプーール村】

日印友好学園コスモニケタンの教職員給料、制服、教材費などの運営費を支援。また、2015年6月～9月にかけて、里親の会のレポート提出強化のために酒井伸雄氏を派遣し、約3ヶ月にかけてレポート指導を実施し、教員から円滑に子どもたちの様々な情報がヒアリングされ、レポートに反映されるようになった。

SSH JAFS 教育支援事業 47名

【タミルナドゥ州ディンディガル県 27名
ナマカル県 20名】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身がHIVに感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援(累計70名)。

RUDYA JAFS 教育支援事業 28名

【マハラシュトラ州ガッチロリ県バダトラ村】

日印友好学園バダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちの中でも反政府活動により近辺の小学校が封鎖され、遠くから通えないために、寮生活を余儀なくされた生徒の寮生活と継続して就学できるための支援を実施。

●カンボジア

KAFS 教育支援事業 61名

【タケオ州、コンボンチュナン州、カンダール州】

コンボンチュナン州とタケオ州そしてプノンペン近郊のカンダール州にある小学校の運営支援、及び、子どもたちへの教材や年一度の校外学習の支援。里子を含めた村の子どもたちを対象とした英語の課外授業の支援。

●ネパール

AFS-Nepal 教育支援事業 31名

【ノールパラシ郡ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサントイ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援(継続就学と高校教育修了)と学校運営支援。

ヤシャシュビ学園 29名

【カトマンズ郡シタパイラ村】

ヤシャシュビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、就学困難な子どもたちに就学の機会を与え、継続就学と高校教育修了を目指した支援。

AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 66名

【カトマンズ郡チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない子どもへの学費支援と学校運営支援。

●バングラデシュ

BDP JAFS 教育支援事業 30名

【ダッカ・ガジプール県】

バングラデシュでは小学校卒業以上の就学費負担が高額のため個人負担費が多くなるために中学校以上の就学率が下がっている。就学意欲のある子どもが中等～高等教育を受けることができるよう就学支援を実施。

●フィリピン

ASI JAFS 教育支援事業 17名

【カピテ州ダスマリネス町パリパラン】

国鉄沿いのスラム街で生活をしている子どもたち。強制移住政策後の不安定な生活の中、小学校での教育を受けること

I. 開発支援事業

ができるように学費や教材などを支援。劣悪な生活環境からトラウマになっている子どもたちの精神的なケアも同時に行っている。

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2015 年 3 月現在)

国名	2013 年度建設数	校舎棟累計数
インド	-	20
インドネシア	-	2
カンボジア	-	41
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	建設中	20
パキスタン	-	2
フィリピン	-	7
ベトナム	-	3
合計	0	106

※学校数及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●ネパール

AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援 一棟

【シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村】

ボテシパ村の公立小中学校の教室不足な状況を改善するために一棟の建設に協力。現在建設中。

(2) 教育環境整備

BSVIA 日印友好学園コスモニケタン学園

【カルナータカ州ビジャプル県ブルナブル村】

コスモニケタン学園の小学校に子どもたちの勉強向上を目指してはじめて机と椅子を 20 台を導入。今後は小学校全てに机椅子を配置し、子どもたちの勉強向上を目指し、よりよい教育環境を作り出していくことを目指す。

RUDYA 日印友好学園パダトラ小学校

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

毎年、インドの共和国記念日を祝って、制服、教材を子どもたちに配布し、インド共和国記念日を祝った。

AFS-Nepal スリーサンティ小学校

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村】

ピトゥリ村は亜熱帯気候の地域で 3 月以降 9 月までは大変気温が上がります。学校に天井ファンをつけ生徒たちが少しでも勉強しやすい環境づくりを願うが、電気供給が不安定であるために授業がある時間に電気がない場合が多い。そのために太陽光発電により電気供給することとし、本会会員で技術者の畑中義雄氏の派遣により設置及びメンテナンスを指導を実施し、今後の本格的な設置に向けてテスト設置を 1 教室行った。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

●インド

SSH HIV/AIDS 支援

【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】

タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県は非識字層の移動労働者が多く、出稼ぎ先の都心部にて性交渉を持ち、HIV/AIDS に感染し、地元にて拡大させている。本会は HIV/AIDS の影響下及び感染している世帯を対象に支援を行っている。支援内容としては、抗 HIV 薬購入支援、栄養価の高い食材の購入、HIV/AIDS の啓発教育などを行っている。2014 年度も 5 世帯の支援を実施した。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

●ネパール

ラリット福祉センター JAFS 教育支援事業

【バグマティ県ラリットプール地区】

孤児や母子家庭の子どもを対象に教育の機会を提供している社会福祉団体の学校。教師 1 名の給料と運営費を支援。自力で就学することが困難な子どもたちが、学ぶ機会を得られるように支援を行った。今年度最終支援。

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村】

ネパールの農村では経済状況が不安定なため、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。健康状態や成長が改善されることを目的として小学校給食支援と栄養指導及び学習を実施。

農村部では、炭水化物中心の食生活で、成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分な状態である。ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 200 名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援を実施(20 年間)。学校のプログラムに組み込まれるようになり、子どもの栄養不足を補うだけでなく、様々な教育的要素を兼ねている。政府から給食支援が実施され 3 年目となったが対象は小学 1 年生より 5 年生の子ども達である上、栄養的な食事が与えられる予算内容ではなく 1 品のおやつ程度の提供にとどまっている。そのため継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と、就学前クラスの子供達への給食支援が不可欠である。併せて実施している栄養学習は上記学校のみならず本会のかかわりのある小学校 6 校の子どもたち(学校名は環境プログラム報告参照)を対象に実施。栄養知識の習得のための教材を学校に配布すると共に環境セミナーの際にも指導を継続実施している。

●フィリピン

ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】

2004 年度より支援を行ってきたマニラ市内の国鉄の線路沿いに形成されたスラム街は、フィリピン政府の政策により、2007 年の全国総選挙に伴い一斉に強制撤去された。南に約 60km、車で 2 時間半のカビテ州ダスマリネス町への移転を余

I. 開発支援事業

儀なくされた。アジア里親の会のプロジェクトとして子どもたちの教育を支援、学用品の支給、学校の授業に立ち遅れてしまう子どもたちには補助的な教育指導も行なった。

また、環境教育のキャンプやユースリーダートレーニングのプログラム、家庭環境が原因で起こる精神的なトラウマのケアも実施。リーダーシップトレーニングにおいては、15歳以上の若者を各地から集め、リーダーシップに関する一貫したトレーニングを行う。そこで認証を受けたリーダーが各自の村に戻りさらに年下の小学・高校生に伝えていく方法を取り、トレーニングを受けたメンバーが増加していている。また、環境保全に関する勉強会と清掃活動も行い、環境保全の意識向上に繋がっている。

※第2回フィリピン UA ゼンセン宮城県支部視察で交流。

●ミャンマー

KBC カチン州の内戦孤児の施設建設支援

【カチン州ミッチーナ町シャタプールバプティスト教会内】

ミャンマーのカチン州の州都のミッチーナにて、Kachin Baptist Convention (カチン・バプティスト教会)を通して、内戦孤児のための職業及び教育訓練施設建設が完成した。現在28名(男16名、女12名)の孤児が集まった。この施設は、2階建ての施設で、各階に3部屋あり、ベッドルーム、居間、勉強部屋、図書室、職員室、先生の宿泊部屋がある。この施設では、現在、養豚と家庭菜園を持っており、子どもたちが今後農村に帰っても何らかの形で手に職が持てるよう訓練を行っている。また、今後は、この施設のトイレなどを改良し、よりよき生活環境の中で子どもたちが生活を送り、内戦で多くのモノを喪失し、傷ついた心が癒やせるよう、様々なプログラムを展開していく予定である。



完成したミャンマー内戦孤児のための施設(子ども村)



ミャンマー子ども村(就学している子どもたちの様子)



鷹の保護について熱心に聞き入る子どもたち(ネパール)



共和国記念日にて制服を受け取った子どもたち(インド)

I. 開発支援事業

I-C. 貧困対策事業

1. マイクロクレジット支援・能力開発

●インド

RUDYA 女性の自助グループ (SHG) 支援事業

【マハラシュトラ州ガッチロリ県ダンノーラ地区
ラクシミーボリ村】

本会の支援により設立された貧困層の個人小規模店舗や女性の自助グループへのマイクロファイナンスのために設立された「アダーシュ協同組合銀行」。設立 10 年目を迎え、委員会選挙が行われ、RUDYA のカシナート氏は、代表の立場から退き、アドバイザーとして銀行の運営を見守ることとなった。新代表となったウセワ氏は、今後のこの銀行の資本強化策として、貯蓄及び融資資本の強化であり、RUDYA と協力し、SHG グループの貯蓄の向上のためのワークショップなどを実施することとなった。

●カンボジア

KAFS マイクロクレジット支援事業

【タケオ州トレアン郡クバプ地区クダイレン村】

クダイレン村 18 世帯に対して、約 15,000 円～37,500 円/世帯に融資を行った。融資により、村人たちは、養鶏、養豚、ヤシ砂糖作り、自転車修理業などの事業強化が可能になった。2014 年度、カンボジア南部（タケオ州を含め）が干ばつに襲われ、米の収穫が出来ず、2013 年度の融資資金返済を延長せざるを得なくなった。2013 年度の返済金に関しては、2015 年の収穫状況を見て判断することとなった。

●フィリピン

AFS-UMD マングローブ植林プロジェクト 9,100 本

【ソルソゴン州マトノグ町サンタ・イザベル村】

沿岸地域開発や薪のために失われたマングローブを取り戻し、低所得層の人々の漁場を作るために 2012 年度から開始したマングローブ植林事業。本年度は、計 9,100 本のマングローブが植林された。

※第 11 回京都暁星高校フィリピンワークキャンプ実施。

JAFS マングローブ植林ワークキャンプ(3 回)実施。

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

(2015 年 3 月現在)

国名	2014 年度完成	累積
インド	-	1194
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	275
パキスタン	-	6
ネパール	8	888
タイ	-	9
ラオス	-	1
合計	8	2377

●ネパール

AFS-Nepal 農村トイレ建設支援

(バイオガスプラント設置付随事業) 8 基

【バグマティ県バクタプル郡スダール村】

ネパールでは、バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレ設置を始める農家が多くなっている。本会のバイオガス設置対象としているスダール村では、バクタプル郡の中でも 2 番目に村の世帯すべてにトイレ設置を目指す村として郡に登録し、トイレ設置及び衛生観念が改善されている。今年度はバイオガスプラント 14 基の設置に対し 8 世帯にてトイレの設置が行われた。

(2) 医療支援

●インド

RUDYA ムスカ村健康増進プロジェクト

【ガッチロリ県ダンノーラ地区ムスカ村】

ナクサライト(極左過激組織)が活発に活動する村にて長年病院建設の要請を受けていた。ナクサライトは病院などの公共施設を襲撃するために、本会は持続的運営は難しいとの判断から、この村に病院建設することを断念した。その後、村人たちと協議を重ね、村人の健康増進のために「出来ることから始めよう」ということで、健康手帳及び妊婦用母子手帳を配布し、村人の現段階の健康状況を記述することにより、健康に意識を働かせ、衛生、健康を向上させる小プログラムを開始した。2014 年度は、医療キャンプを実施し、対象 2000 人に診察を行い、必要な薬などを配布した。また、2000 人を対象に、健康手帳、母子手帳を配布した。ガッチロリ県病院のビジョイ医師に協力を仰ぎ、基本健康診断も行われた。村人の健康状況がチェックされた。今後は周辺 5 村への健康手帳、母子手帳の配布と健康診断を実施すると同時に衛生環境を変えるべく、トイレ、井戸建設などを同村にて実施予定である。

●ネパール

AFS-Nepal 地域医療向上支援事業

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村】

山間地にあるボテシパ村。病院はなく村の診療所だけが村人が医療を受けることの出来る唯一の機関です。お産を迎える妊産婦の医療フォローなどを行うために必要な医療器具の支援を実施し、村人のよりどころになるために協力した。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークの各国部会(NGO)の活動の強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

I. 開発支援事業

RUDYA (インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

HDSI (インド)

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助した。

GSI (インド)

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるために基本機関として設立された Green Scout India その代表を務めるブラザーシン氏の給与及び事務所諸経費を本会にて負担した。

KAFS (カンボジア)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

SARVODAYA (スリランカ)

2013 年度に引き続き、サルボダヤの元スタッフのクナシリ氏の給与を負担した。氏は、今年度サルボダヤの瞑想センターにおける活動だけでなく、本会の水供給事業の実施、モニタリングにも携わった。



融資を受けたシャツ作りをはじめた村の女性(カンボジア)



マングローブ植林の様子(フィリピン)



ヘルスカード記載のための聞き取り調査



協同組合銀行の新メンバーたち(インド)

I. 開発支援事業

I-D. 環境事業

地球温暖化が原因の気候変動が一因となり、世界各地で大型の自然災害や干ばつなどがより一層激しさを増している。その中で、持続可能な地域社会を見つめ直す一つの方法として、環境保全運動は、ますます重要性を増している。本会の活動地域が、気候変動により被災地化していく中で、なぜ、植林をするのか、なぜ、環境運動を貧困層の村人に啓発していくのか、自らが被災者であるから、より深く理解されるだろうと期待している。

1. 植林・水源涵養林養育

(1) 植林

(2015年3月現在)

国名	2014年度植林	累積
インド	-	712,205
インドネシア	2,000	200,960
カンボジア	6,000	18,000
スリランカ	-	400
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	1,650	297,566
パキスタン	-	4,560
フィリピン※	9,100	97,265
バングラデシュ	-	26,500
	18,750	2,483,481

※フィリピンマングローブ植林は貧困対策事業として実施。

●インドネシア

Hosanna 植林事業 2,000本

【北スラヴェシ州トモホン市マハウ山自然保護地区】

2013年度より、北スラヴェシ州の森林省との協力によりスタートした植林事業。2014年度は、トモホン市のマハウ山の森林省指定の自然保護区域の環境保全強化と啓発のために植林を実施、自治体、教会、学校の子どもたちを含め植林が実施された。アラザ果樹、マホガニー、エボニーなどの植林が2000本実施された。今後の維持管理は、マハウ山資源保護地区管理委員会（村人と自治体の人々の構成）により管理される。

※イオンリテールワーカーズユニオン、アセアンワーキングセミナーにて実施。

●カンボジア

KAFS タケオ州トリアン郡 6,000本

【ロネアム地区トラペアンチュウレイ村 3,000本】

【ロネアム地区ソピー村 3,000本】

2014年度、日本のワークキャンプ参加者と村人との国際交流を通じた環境啓発を目的として、タケオ州トリアン郡ロネアム地区の2村にて植林を実施した。樹種は在来種のアカシアである。2014年度は6月以降から干ばつとなり、多くが活着しなかった。村の管理組合が持つ資金から補植を行う予定である。

※イオン九州、マックスバリュ中部労働組合カンボジアワークキャンプにて実施

※イオンリテールワーカーズユニオンのアセアンワーキングセミナーにて実施

●ネパール

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 1,200本

【ルンビニ県ノールバラシ郡ピトゥリ村】

環境を守るため又地域開発運営の為に村民たちによるコミュニティフォレスト活動を継続実施している中、一級河川のナラヤニ川の岸が河の流れと地形の関係でけずられている状況が深刻化し始めた。そのために護岸を行うための工事と植林を行うこととし、日本より会員であり専門家の佐々木氏に現地にて指導してもらい、現地の特産物となることを計画し、柿の木植林活動を行った。又ビニールシートで岸の表面を覆いその上や周りに根をしっかりとほすラタンを植え土を保護する事を目指した植林を実施した。併せて、森の拡大のために植林を行い、森と農村の人々のつながりをさらに重視した植林活動を目指しておくことを目標として、実施していくこととした。

※一部「緑の基金」国際緑化公募事業の助成により実施

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 450本

【バグマティ県バクタプル郡スダール村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を、引き続き実施。FUG(フォレストユーザーズグループ)はコミュニティフォレストとして地域の森作りを以前より実施しているが、この地域は一種類の木(松)の植林により森の植生が異常な状況になっている。森再生を目的に村人と地域の学生及び環境プログラム参加の他村の学生も加わり植林を実施。平野地域の子どもが山間地の植林を経験できる学習の機会ともなった。ネパール自生のロブシー、薬草として用いられるドゥピサツラ、ビレンドラフル、クトゥミロ、アマラ、コパール等を450本の植樹した。

※夏季現地小学生環境セミナーにて植林実施

2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFSの海外ネットワークを通じて国際的に16ヶ国にて展開。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。

以下は、各国(日本を除く)の活動状況。

I. 開発支援事業

●インド

HSI グリーンスカウト環境保全・キャンプ

【マハラシュトラ州アムラワティ県チッカラダラ地区

2014年5月5日から14日の期間、地元の小学生100人を集めて、環境キャンプを実施。環境を守ろうをテーマに、講師を迎え基礎学習を実施、その後、エッセイコンテスト、絵画コンテスト、グループディスカッションなどを実施した。

●ネパール

AFS-Nepal 小学生環境セミナー

6校

【バクタプール郡スダール村、カブレ郡トックチャ村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村】

GS活動を行う小学生対象の環境セミナーを2回実施。その1回目は8月にスダール村にて地元の小学校2校とカトマンズ郊外のチュニケル村より1校、平野部のピトゥリ村より3校の計6校の小学生30名が集合し、自然エネルギーの一つ、「太陽エネルギー」に関しての働きや仕組みなどを学ぶことにより今後学校へのソーラーパネル導入への第1歩とした。同時に滞在している村のコミュニティフォレストへの植林作業、又各学校の環境活動の成果と今後の目標を発表。隣村の小学校を訪問するとともに参加隣村までの道に落ちているゴミ拾いを行い、ゴミを分別し、多くなっているプラスチックゴミの軽減のためにするべきことなどを話し合った。カリカ小学校（スダール村 会場校）、マハンカル小学校（トックチャ村）、スリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校（以上3校ピトゥリ村）、ナウリン小学校（チュニケル村）小学生各校5名及び教師各校2名

2回目は12月にピトゥリ村にて実施、8月とは逆に山間地の子どもが平野の状況を学ぶと共にピトゥリ村にて8月以後どの程度の活動を実施できているかを各学校より発表してもらったと共に、「地球と私たち」という環境紙芝居を教材にし、今後この教材を児童教師共にどのように活用していくかを考え、これまでの学校清掃の内容と質を高めていくために、それぞれの掃除方法を指導すると共にその方法の意味を説明し理解を促した。同時に日本の雑巾の利点と縫い方を伝授し、ネパールの清掃に欠けている視点を気づくように促した。最終的には学校で行う目標を一つ決めそれぞれの学校に持ち帰り、その目標の提案理由を学校全体でシェアし合い、どのようにその目標に向かって活動を行うかを学校で決めることとし、参加した学生がそれぞれの学校にてリーダーとして活動を実施できるように促した。スリーサンティ小学校（ピトゥリ村6地区・会場校）、ラーズラトナ小学校（ピトゥリ村4地区）、ピトゥリ小学校（ピトゥリ村9地区）、ナウリン小学校（チュニケル村）、新規参加として、ウェットバラ小学校（トックチャ村）小学生各校5名及び教師各校2名

※一部、ゆうちょ財団 NGO 海外援助活動助成にて実施

AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり

【バクタプール郡スダール村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村】

農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカルGSづくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。

ピトゥリ村GSは、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して継続実施している。チュニケル村GSは、地域清掃及びコミュニティ

ーフォレスト活動を通じ地域の環境保全に繋がるとし、子どもたちが毎年GSとして植林活動を実施。スダール村GSは美化活動の取り組みと地域の環境活動への参加としてコミュニティフォレストにて植林を実施。地域のクラブ的な活動としてリーダー育成をも目指している。

3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

●ネパール

AFS-Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業

16基

【バグマティ県】

資源が少ないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスの普及が、確実な燃料確保につながると同時に、人口増加とともに森林破壊が進み、その歯止めとし薪の代替燃料の確保が急務となっている。農村に住む人々の生活改善（薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善、発酵後のスラリーは農業に欠かせない堆肥となる）にも大きく寄与している。効果として、1基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000Kgの使用量の内70～90%削減することができ、国土の30%台にまでに減少（以前は70%）した森林面積の回復にも繋がる。同時にトイレの併設も進み、農村地区での衛生向上にも繋がっている。

・バクタプール郡バゲスワリ村 14基

・ノールパラシ郡ピトゥリ村 2基

【2014年度 計16基設置 累計1,076基設置】

※一部、ゆうちょ財団 NGO 海外援助活動助成にて実施



護岸工事指導を行う本会の会員、佐々木実氏（ネパールにて）



ソーラーパネル設置における技術指導を行った
本会会員、畑中義雄氏（ネパールにて）

I. 開発支援事業

I-E. サイクル・エイド事業

1. サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は、年間 50 万台に上り、うち約半数は引き取り手がないために大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リデュース・リユース・リサイクルの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005 年度より、本会が事務局として事業を実施。大阪府などがメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計 731 台

放置自転車を収集するために、府内各市町村へ協力の呼びかけを実施。今年度は下記の 6 市から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、海上輸送された。

◆府内協力市及び台数

堺市 200 台、八尾市 200 台、阪南市 100 台、
泉大津市 100 台、大阪市 100 台、四條畷市 30 台、
その他 1 台

今年度はカンボジアに 381 台、フィリピンに 350 台、合計 731 台の自転車が寄贈された。事業開始以来、アジア、アフリカの 10 ヶ国に合計 28,620 台の自転車を贈ることができた。

カンボジア 781 台

カンボジアに贈られた自転車は、青少年や女性たちを中心にタケオ州の農村地域(バティ県コマーリリチュア村、キリヴォング県コープリーチ村他)に寄贈され通学や仕事のために活用されている。3月8日の世界女性デーに合わせて式典もおこなわれ、自転車の利用で地域の女性たちが効率よく生活環境を整えることにより、女性の地位向上への取り組みも期待される。式典には700名以上の村人が参加し、住民の関心の高さが伺われる。また、優秀で勉強を続けたいが、経済的理由から進学をあきらめていた小・中・高校生の子ども達にも配布され、継続した教育を受けることができるようになった。

自転車の寄贈には、公平にまたより必要とされている人々に贈れるよう、政府、現地 NGO(KAFS)、村の組織等で協力体制をとりながら、取り組んでいる。

フィリピン 750 台

フィリピンに贈られた自転車は、ヌエバエシハ州カピアオ町の子どもの通学に加え、医療従事者の巡回、貧しい農民、自警団に手渡され、有効に活用されている。3/23～27 には卒業の時期にあわせ、パラシナ小学校、サンフェルナンドノーテ村、エンタブラオ小学校、サンローテ村、カピアオ町ホール、セント ジョセフ小学校で自転車贈呈式典と国際交流プログラムが行われた。

プログラムでは“自転車を教育・健康・安全”のために有効活用していくことを確認し、地域の教育や福祉環境の向上に市民一丸となって取り組むこととなった。贈られた自転車によって、それまで不可能だった通学や仕事の効率化、生活の改善を可能にし、受益者達が自立への第一歩を踏み出せるようになった。そのことが地域社会福祉の底上げとなり、よりよい地域社会の創造につながっていている。貧しい人々が集まって住んでいた地域の環境改善、生業の確保、観光資源の創造等、地域の意識を変え、NGO、行政、村人等が世代、国境を越えて協力していく仕組みづくりが進められている。

また地球環境保全への意識を高めることで、同じ地球の住民としての視点を持ち、互いに協力しあう国際交流の推進活動を拓けていくことが期待される。自転車を通じて、日本と各国の国際交流が活発になり、人と人の絆が深まることによって、草の根の理解と協力の輪が広がることが期待される。

◆サイクル・エイド関連国内プログラム

● さつき祭

日程:2014 年 5 月 5 日(月・祝) 場所:堺市山之口商店街

主催:開口神社

<内容>

子ども達の健やかな成長を願う祭りの場で地域のご協力のもと、サイクル・エイド事業の広報活動として展示と活動紹介をおこなった。また、アジアの民芸品や飲食の販売をおこない、海上輸送への協力を得ることができた。

● 泉大津フェニックス野外コンサート

日程:2014 年 8 月 30 日(土)、31 日(日)、9 月 1 日(日)、7 日(土)

場所:泉大津フェニックス

主催:泉大津フェニックス夏フェス 14 実行委員会事務局

来場者数:合計 約 66,320 人

<内容>

泉大津フェニックスが誕生した新しい町「夕風町」では、空と海、そして全面芝生という心地よい空間で、野外コンサート等各種イベントが開催されている。今年度は 8 月 30 日 KANA-BOON 野外ワンマンヨイサヨイサのただいまつり in 泉大津フェニックス、8 月 31 日 RUSHBALL2014、9 月 6 日、7 日 OTODAMA'14～音泉魂～、9 月 13 日、14 日 OSAKA HAZIKETEMAZARE FESTIVAL 2014 が開催され、多くの音楽ファンを魅了した。コンサート主催者の多大なる協力のもと、会場内のブースでサイクル・エイド事業の活動紹介とチャリティバザーをおこない、海上輸送への協力を得ることができた。

I. 開発支援事業

● 四條畷市民の集い

日程:2014年10月26日(日) 場所:四條畷市

主催:市民憲章推進協議会

<内容>

第40回市民の集いの会場で、サイクル・エイド事業の広報活動として展示と活動紹介をおこなった。また、アジアの民芸品や飲食の販売をおこない、海上輸送への協力を得ることができた。

◆ サイクル・エイド募金箱の設置

再生自転車の海外輸送費を確保するため募金箱を設置し、寄付の呼びかけを行った。

日程:2014年4月1日～2015年3月31日

場所:大阪府パスポートセンター本所

◆ 国際交流プログラム

【京都府京丹波市にて国際交流プログラム】

日 時:2014年4月1日(火)

場 所:京都府京丹波市

参加者:30名

協 力:南丹市国際交流協会、NPO 法人丹波ネット

内 容:タイ文化紹介、サイクル・エイド活動報告、農作業体験、交流

【大阪府表敬訪問・意見交換】

日 時:2014年4月3日(木)

場 所:大阪府庁

参加者:17名

内 容:サイクル・エイド活動報告、意見交換、交流

【大阪市表敬訪問・意見交換】

日 時:2014年4月3日(木)

場 所:大阪市役所

参加者:16名

内 容:サイクル・エイド活動報告、意見交換、交流

【堺市表敬訪問・意見交換】

日 時:2014年4月4日(金)

場 所:堺市役所

参加者:18名

内 容:サイクル・エイド活動報告、意見交換、交流

【大阪府立大学にて国際交流プログラム】

日 時:2014年4月5日(土)

場 所:大阪府堺市

参加者:300名

協 力:大阪府立大学

内 容:タイ文化紹介、サイクル・エイド活動報告、交流

【フィリピン スエバエシハ州カビアオ町 国際交流プログラム】

日 時:2015年3月23日(月)～27日(金)

場 所:フィリピン スエバエシハ州カビアオ町

パラシナ小学校、サンフェルナンドノーテ村、

エンタブラオ小学校、サンローテ村、

カビアオ町ホール、セント ジョセフ小学校

参加者:延べ約1,500名

内 容:自転車寄贈先であるフィリピン スエバエシハ州カビアオ町で行政・学校(教師・保護者・子ども)・保健婦・自警団・農民等の村人達を対象に、現地提携団体とともに本事業の目的・目指すところ・事業内容等の紹介、説明をおこなった。現地では“自転車を教育・健康・安全”のために有効活用していくことを確認し、地域の教育や福祉環境の向上に市民一丸となって取り組みこととなった。また、日本とフィリピンの互いの国を知ることで、今後の協力関係もより強固になっていくと思われる。

※この事業は競輪の補助を受けて実施しました。



サンフェルナンドノーテ小学校での自転車贈呈
と国際交流プログラム
(フィリピン スエバエシハ州カビアオ町)



自転車の活用で女性の更なる活躍が期待される
(カンボジア タケオ州バティ県コマールリチュエ村)

I. 開発支援事業

ワークキャンプ・視察

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

本年度は、4カ国で12回に亘って実施した。延べ267名が参加した。以下、実施日時順による。

1. 第44回ネパール国際ワークキャンプ(ネパール)

期 間:2014年4月28日～5月7日

場 所:カトマンズ郡チュニケル村

参加者:6名

内 容:学校教育プロジェクト支援、交流

2. フィリピンマングローブ植林キャンプ(フィリピン)

期 間:2014年5月16日～5月21日

場 所:ソルソゴン州マトノグ町セントイサベラ村

参加者:3名

内 容:植林、交流など

3. 第29回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間:2014年5月20日～5月24日

場 所:タケオ州トレアン郡ブランバイマム地区トラパンベン村

参加者:28名

内 容:井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈

4. かねでん NGO ネットワークきょうと ネパール植林プロジェクト第4次ワークキャンプ

期 間:2014年5月24日～6月1日

場 所:ノールパラティ郡ピトゥリ村及びカトマンズ郡

参加者:13名

内 容:植林事業、交流

5. 第30回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間:2014年5月27日～5月30日

場 所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区トラパンタム村

参加者:27名

内 容:井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈、

6. 第4回イオン九州労組・マックスバリュ中部労組 カンボジアワークキャンプ

期 間:2014年6月10日～2014年6月14日

場 所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区ソピー村

参加者:21名

内 容:植林、交流、小学校にて文具寄贈

7. イオンリテールワーカーズユニオン

アセアンワーキングセミナー(インドネシア)

期 間:2014年6月17日～22日

場 所:ジャカルタ市

北スラヴェシ州トモホン市

参加者:21名

内 容:植林、エコ観光、交流、イオン・ジャカルタ視察

8. イオンリテールワーカーズユニオン

アセアンワーキングセミナー(カンボジア、ベトナム)

期 間:2014年7月4日～9日

場 所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区トラペアンチュレイ村
ベトナム、ホーチミン市内

参加者:23名

内 容:植林、交流、小学校にて文具寄贈、
イオン・プノンペン、イオン・ベトナム視察

9. 第45回ネパール国際ワークキャンプ

期 間:2014年8月11日～20日

場 所:バクタプール郡スダール村、カブレ郡トゥクチャ村

参加者:4名

内 容:植林、交流など

10. 第11回京都暁星高校ワークキャンプ(フィリピン)

期 間:2014年9月22日～9月29日

場 所:ソルソゴン州マトノグ町セントイサベラ村

参加者:12名

内 容:植林、学校塗装、交流など

11. フィリピンマングローブ植林キャンプ(フィリピン)

期 間:2014年10月11日～10月15日

場 所:ソルソゴン州マトノグ町セントイサベラ村

参加者:5名

内 容:植林、交流など

12. 第4回オムロン労組カンボジアワークキャンプ

期 間:2014年11月12日～11月16日

場 所:タケオ州トレアン郡クバブ地区クダイ・ルン村

参加者:16名

内 容:井戸建設、交流

13. 第31回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間:2014年11月18日～11月22日

場 所:タケオ州トレアン郡クバブ地区クダイ・ルン村

参加者:27名

内 容:井戸建設、交流

14. 第32回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間:2014年11月25日～11月29日

場 所:タケオ州トレアン郡クバブ地区クダイルン村

参加者:25名

内 容:井戸建設、交流

15. 第46回ネパール国際ワークキャンプ

期 間:2014年12月24日～2015年1月2日

場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村

参加者:4名

内 容:環境セミナー、バイオガスプラント視察、交流

16. 第11回情報労連東海ブロック協議会

フィリピン・カタンドゥアネスワークキャンプ

期 間:2015年1月8日～1月12日

場 所:カタンドゥアネス島サンアンドレス町アゴホ村

参加者:16名

内 容:井戸・パイプライン建設、プロジェクト視察、交流

17. フィリピンマングローブ植林キャンプ(フィリピン)

期 間:2014年2月7日～2月11日

場 所:ソルソゴン州マトノグ町セントイサベラ村

参加者:7名

I. 開発支援事業

内 容:植林、交流など

18. 第47回ネパール国際ワークキャンプ

期 間:2015年2月18日～2015年2月27日

場 所:シンドウパルチョーク郡ボテンパ村

参加者:9名

内 容:水道パイプライン建設、地域保健事業視察、バイオガスパ
ロジェクト視察、交流など

2. 海外プロジェクト視察

1. フィリピン、UA ゼンセン宮城県支部 教育支援事業視察

期 間:2014年4月10日～4月12日

場 所:マニラ市、カビテ州ダスマリネス町パリバラン

派遣者:UA ゼンセン宮城県支部5名、村上公彦

内 容:ストリートチルドレン教育支援プロジェクト視察、交流

2. フィリピン台風被災者支援事業視察

期 間:2014年4月23日～4月26日

場 所:アンティーク州パンダン町、ティビアオ町、バルバザ町

派遣者:田中久雄夫妻、村上公彦

内 容:被災漁師のためのボート支援事業視察、及びボート引き渡
し式に参加

3. インド プロジェクト視察

期 間:2014年5月15日～5月23日

場 所:インド、カルナータカ州ビジャプール県

派遣者:村上公彦(他2名)

内 容:日印友好学園コスモニケタンプロジェクト視察

4. インド 日印友好学園コスモニケタン 教育指導派遣

期 間:2014年6月24日～9月30日

場 所:インド、カルナータカ州ビジャプール県

派遣者:酒井伸雄

内 容:日印友好学園コスモニケタンの里親の会、教員へのレポー
ト指導のため派遣

5. ネパール プロジェクト視察

期 間:2014年4月24日～5月8日

場 所:バクタプール郡バゲスワリ村(他)、ノールパラシ郡ピトゥリ
村(他)

派遣者:熱田典子

内 容:環境事業、教育支援視察及び調整

6. フィリピン、プロジェクト視察

期 間:2014年6月1日～6月7日

場 所:アンティーク州ギマラス町、マニラなど

派遣者:村上公彦

内 容:新AFSチャプター発足式参加、台風被災者支援チャリティ
コンサート打ち合せなど

7. インド プロジェクト視察

期 間:2014年6月15日～6月23日

場 所:カルナータカ州バンガロール県、ビジャプール県

派遣者:田中壽美子(他2名)

内 容:日印友好学園視察、現地プロジェクト視察

8. ネパール プロジェクト視察

期 間:2014年8月8日～8月20日

場 所:バグマティ県カトマンズ郡、ノールパラシ郡

派遣者:熱田典子

内 容:バイオガスパラント・植林事業視察・ソーラーパネル事業打
ち合せなど

9. フィリピン、京セラ労働組合 井戸プロジェクト視察

期 間:2014年9月9日～9月11日

場 所:スエバエシハ州カビアオ町など

派遣者:京セラ労働組合(2)、村上公彦

内 容:京セラ労働組合寄贈井戸視察

10. インド プロジェクト視察

期 間:2014年9月13日～9月23日

場 所:カルナータカ州ビジャプール県、マハラシュトラ州ナグプー
ル県、アムラワティ県、ガッチロリ県

派遣者:村上公彦

内 容:教育支援事業視察、インド AFS ネットワーク調整

11. ネパール プロジェクト視察及びトレーニング実施

期 間:2014年10月11日～10月20日

場 所:バクタプール郡スダール村、バケスワリ村、カブレバランチ
ョーク郡トクチャ村、ノールパラシ郡ピトゥリ村、ボカラ

派遣者:熱田典子

内 容:バイオガスパラント及び環境事業視察及び研修実施。
栄養指導トレーニング実施(受託)

12. インド プロジェクト視察

期 間:2014年10月13日～10月23日

場 所:カルナータカ州バンガロール県、ビジャプール県、プーネ
県、デリー

派遣者:田中壽美子(他、2名)

内 容:日印友好学園視察、現地プロジェクト視察

13. フィリピン プロジェクト視察

期 間:2014年11月28日～12月2日

場 所:マニラ市内

派遣者:村上公彦、岡本佳子

内 容:AFS マニラ台風被災者支援チャリティコンサート視察

14. ネパール 実技指導・プロジェクト視察

期 間:2014年12月24日～2014年1月16日

場 所:ノールパラシ郡、バクタプール郡、カトマンズ郡

派遣者:佐々木実、畑中義雄(1/6-14)、熱田典子

内 容:植林指導・実施、ソーラーパネル設置、技術指導、バイ
オガスパラント及び環境プログラム実施、教育支援事業視察

15. タイ プロジェクト視察

期 間:2015年1月8日～2015年1月14日

場 所:タイ、ナン県、チェンマイ県

派遣者:村上公彦

内 容:タイ AFS ネットワーク調整会議

16. ネパール プロジェクト視察

期 間:2015年2月18日～3月3日

場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡、バグワティ県シンド
ウパルチョーク郡、バクタプール郡、

派遣者:熱田典子

内 容:バイオガスパラントプロジェクト視察、地域医療支援事業実施、栄
養プロジェクト視察

17. カンボジア プロジェクト視察

I. 開発支援事業

期 間:2015 年 3 月 2 日～2015 年 3 月 7 日

場 所:カンボジア、プノンペン

派遣者:村上公彦、他 1 名

内 容:KAFS プロジェクト調整会議

17. フィリピン サイクル・エイド プロジェクト視察

期 間:2015 年 3 月 23 日～3 月 27 日

場 所:ヌエバエシハ州カビアオ町、マニラ

派遣者:橋本隆、岡本佳子

内 容:サイクル・エイド自転車贈呈式、KALIPI プロジェクト地訪問
行政・小学校・自警団・保健婦意見交換・交流



イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ
(村の人たちと共に井戸建設作業)



フィリピン京都暁星高校 マングローブ植林ワーク
(現地の子どもたちと交流)



ネパール ワークキャンプ
子どもたちによるバイオガスプラント建設作業



オムロン労働組合 カンボジアワークキャンプ
(井戸建設完成後、村の人たちとともに)



情報労連東海ブロック協議会フィリピンワークキャンプ
(村の人たちと共にパイプライン設置作業)

Ⅱ．国際交流事業

Ⅱ－A．人材交流・育成事業

1．奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金（奨学金等）を支援。

●フィリピン

ASI マニラ 5名

本年度は、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）の国際社会開発夏期コース（2ヶ月間）に以下のフィリピン5名のAFSメンバーの奨学を支援した。

- クレオ・サルモリン・セスペネーセ
- ロビン・ジョン・カスティロ
- レオマー・アグリバオ
- マリベス・カルデロン・フェリックス
- グロリア・アランブロ

2．海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として2000年より実施。2014年度は1名の研修生が国内研修150時間以上の終了後、ネパールで約3か月間の海外研修を実施。小学校にて教師ボランティアを通しての副教科の指導による情操教育の発展に寄与しながらアジア里親会の里子の調査の活動をおこなった。

- ① 研修生氏名：籠谷 啓史（社会人）
研修先：ネパール（受入：AFS-Nepal）
ノールパラシ郡ピトゥリ村 スリーサンティ
小学校／ピトゥリ小学校／ラーズラトナ小学校
カブレ郡 Swet Braha Higher Secondary School
海外研修期間：2014年11月17日～2015年2月9日

3．日本語教師派遣

日本語を通して日本への理解とアジアと日本とのつながりを深めることを目的として、日本語教師ボランティアの派遣を実施した。本年度は昨年フィリピンに派遣した中島和子氏を要請のあったインドネシア、バリ島のディアナプラ大学に派遣した。

日本語教師名 中島 和子
実施場所 インドネシア、バリ島、ディアナプラ大学
受入提携団体 Hosanna Foundation
実施期間 2012年8月～2014年11月19日にて終了



アジア社会科学院のCDコースにて



海外ボランティア研修生 籠谷氏 ネパールにて
（子どもへの情操教育指導）



中島先生と学生（インドネシアにて）
（日本語指導を受けた学生と共に）

Ⅱ．国際交流事業

Ⅱ－B．ネットワーク推進事業

1．国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

第24回アジア国際ネットワークセミナー

開催地 シェムリアップ州アンコールパラダイスホテル

参加国 インド、インドネシア、カンボジア、タイ、ネパール
フィリピン、バングラデシュ、日本

参加者数 52名

テーマ： 社会開発における宗教の役割

内容： 開会式 H.E. ミンキン氏（文科宗教省大臣）

村上 公彦

ロン・チョーン

基調講演 ピン・ソフィア氏

（社会開発における宗教の役割）

パネルディスカッション（各宗教における社会
開発の役割について）

- カシナート・デオガデ氏（ヒンドゥ教）
- エミリアランゴテ（キリスト教）
- センソモニー（仏教）

グループディスカッション（同テーマにおいて）

AFS ネットワーク各活動報告

今後のAFS ネットワークについて（協議会）

- AFS International の組織化
- AFS 国際協議会の設立
- 会費（100ドル/チャプター）
（融資にて基金の一部を提供）
- 若者の交流促進など

以上の内容が討議され、今後 AFS 憲章として 2015 年度シンガポールにて実施予定の同セミナーにて引き継がれることとなった。

(2) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金、”アジア・フレンドシップ夢基金”は、2010年度から、本会が実際に支援している国々の人たちから積極的に集められた。2014年度は、AFS/ICO の事務局長にフィリピンのジーナ・ヤップ氏を任命し、氏が、積極的に AFS ネットワーク運動の普及啓発に努めた。AFS ネットワークアジェンダを策定し、これに対する議案事項が第24回アジア国際ネットワークセミナーにて議論された。今後も氏が AFS/ICO ディレクターとして活動を行っていく予定であり、今後の AFS 活動においては、全て氏が検証しながら判断していくこととなった。

(3) アジア・ユースサミット

事業名 地球の未来に向かって～持続可能な地域を目指して～
「第3.5回アジア・ユースサミット in ベトナム」

第3.5回テーマ「地域の環境資源を活かした持続可能なコミュニティモデルの構築」

事業期間 2014年12月24日～31日

事業場所 ベトナム・キエンザン省キエンルオン地区フーミー村

事業の目的

本事業の目的は、持続可能な地域作りを目指して、地域の中にある様々な社会的課題に対して、地球規模で考え、地域で行動をすることのできる青少年の育成を行うこと、様々なバックグラウンドを持った若者が集まる場の中で育まれる友情とネットワークの構築を行うことである。

参加者数 合計18名

日本 4名

インド 1名

ベトナム 13名

事業内容

12月24日 参加者集合

12月25日 移動、オリエンテーション(アイスブレイキング)

12月26日 プレゼンテーション、レピロニアプロジェクト視察
生産者インタビュー

12月27日 生産者インタビュー、グループディスカッション

12月28日 生産者インタビュー、アクションプラン作り

12月28日 アクションプラン発表、レピロニア販売所視察
カルチャーナイト

12月29日 移動、アクションプラン採択

12月30日 ホーチミン市内視察

12月31日 帰国

2014年12月25日から29日までアジア・ユースサミットプログラム in ベトナムが実施された。キエンザン省には、持続可能な地域に必要な環境、文化、経済の3要素の全てに課題を抱えていた。これらのバランスを考え、アクションプランを採択することは困難であった。その理由は、地域の人たちは、現在の所得において精神的、文化的には満足しているが、経済的需要及び成長とのアンバランスを起している。そして、その地域には経済的需要を満たすための新たな環境破壊が起こっている。そして、このことは単にフーミー村の問題ではなく、参加国のそれぞれの地域にも当てはまることであった。したがって、私たちはこのフーミー村で起こっている問題を自らの地域に当てはめ、以下を実践すると決めた。アクションプランは、レピロニア・プロジェクト及び各国の課題の二つにわけて策定された。

<アクションプラン>

●レピロニア草を活かしたプロジェクトについて。

経済需要と生産者が必要としている文化的時間のバランスを常に考えることを念頭に置き販路を拡大し、生産者のセーフティネットを確保していくことで一致した。その上で、各国の自らが通う大学内にてアンケートをとり、各国に応じたデザインを開発し、フーミー村の生産者に提案し、製造をする。それらを様々な販売方法、大学内にてファッションショーなどを企画し、販路を拡大する。各国にてスタディツアーを考案し、より多くの人たちをフーミーの地に招き、

Ⅱ．国際交流事業

レピロニア草栽培、ハンディクラフトの生産に触れる機会を提供する。

●各国の持続可能な地域作りについて

大学内にて、地域の人、家族や親族、友人が一堂に集まり、経済グループ、環境グループ、文化グループという役割に分けて、それぞれの利害関係を発表し、この3グループのバランスが保たれる条件は、何かを模索するための公開セミナーを実施する。

※レピロニア草とはカヤツリ草科の植物で、ベトナムでは、レピロニア草を乾燥させ、ハンディクラフトで普段使用するマットやかご、観光客用にカバンや文具入れなどが生産されている。ベトナム戦争時に使用された化学薬品の環境被害のために農業における生産量が少なく、レピロニア草のような代替生産物にて現金収入を得ている。レピロニア草は生産性が高く、市場に繋がれば、フーミー村全般の経済を支えられるようになり、貧困緩和に繋がると期待されているプロジェクトであり、本プログラムでは、このプロジェクトを通して経済的な面からの地域の持続性をいかに達成出来るかが話し合われた。

助成： 独立行政法人 国際交流基金
協力： 松原市役所
カントー大学環境科学部
NGO 湿地帯ネットワーク

(平成26年度、独立行政法人国際交流基金 知的交流会議助成
地域リーダー・若者交流助成事業)

2. 国際体験交流（スタディーツアー等）

アジアにおける本会海外プロジェクト視察やアジアの現状に対して、足を運び実感することを通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。本年度は2ヶ国に2回実施し、述べ18名が参加した。

第3.5回アジア・ユースサミット ベトナム (ベトナム)

期 間：2014年12月24日～31日
場 所：ベトナム、キエンザン省
参加者：日本4名、インド1名、ベトナム13名
内 容：ユースサミット開催

フィリピンスタディーツアー (フィリピン)

期 間：2015年2月10日～2月12日
場 所：マニラ市トンド、サンアンドレス、
カビテ州ダスマリナス市パリパラン
参加者：6名
内 容：ストリートチルドレン教育支援、文化交流、観光



第24回アジア国際ネットワークセミナー(カンボジアにて)
(グループディスカッションの様子)



第3.5回アジア・ユースサミット in ベトナム
(アクションプラン策定に向けて議論しているところ)



フィリピン、スタディーツアーにて
(パリパランの子どもたちの生活の様子)

海外提携団体 AFSネットワーク

(18ヶ国 68団体 日本除く)

提携団体 (略称)	管理責任者	所在地	活動
1 インド			
1 BSVIA	N. クンバール	カルナータカ州ビジャプール	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
2 EDCI	M. サンディシュ	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策、環境
3 ISSA	J. ザカライヤ	マハラシュトラ州プーネ	水、子ども、貧困対策
4 AFS Kolkata	A. バナジー	西ベンガル州コルカタ	水
5 SSH	B. セルヴァラージ	タミルナードゥ州ディンディガル	水、子ども、災害復興
6 RUDYA	D. カシナート	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
7 HDSI	T. プロモート	マハラシュトラ州アムラワティ	水、環境
8 JVK	アショク・トッポ	オリッサ州ブバネシュワール	災害復興
9 AMS	A.P. ポール	タミルナードゥ州マバルワペタイ	水、貧困対策
10 Don Bosco Asyalayam	Fr. ジョージ	デリー	子ども
11 Runa	ピーター・ペロ	ナガランド州コヒマ	水
12 AFS-Nagpur	P. ビシャール	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策
13 AFS-Akola	D. ダンラジ	マハラシュトラ州アコラ	環境
14 AFS-Rural Gacchioli	D. バルサガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
15 AFS-Gadchiroli	P. ソンタッケ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
16 AFS-Saoli	B. アレワール	マハラシュトラ州チャンドラプール	貧困対策
17 AFS-Aramori	M. ヘポット	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
18 Green Scout India	Br. T. シン	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、環境
19 AFS-Chhattisgarh	S.H. パッタン	マハラシュトラ州チャティスガー	貧困対策
20 AFS-Sanguli	クムディニ・ナシュテ	マハラシュトラ州サーングリー	子ども、貧困対策
21 AFS-Latur	ラジ・マホール	マハラシュトラ州ラトウール	子ども、貧困対策
2 インドネシア			
22 HOSANNA	E. サントサ	バリ島ケロボカン	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
23 AFS-Aceh	タンタウィ	アチェ州	環境、災害復興
24 AFS-Jakarta	B. ラバン	ジャカルタ	水、貧困対策、環境
25 Dhyana Pura 大学	マデ・ニヤンドラ	バリ島クタ	国際交流
3 韓国			
26 公州大学校産業科学大学	ユン・ジュン・サン	忠清南道礼山	国際交流
4 カンボジア			
27 KAFS	ロン・チョーン	プノンペン	水、子ども、貧困対策
5 シンガポール			
28 AF- Singapore	エドワード・オング	シンガポール	国際交流
6 スリランカ			
29 SARVODAYA	A.T. アリヤラトネ	モラトゥワ	水、環境、貧困対策

7	タイ			
30	VITAL	K.スリサン	コンケン県マハサラカム	貧困対策
31	TAFS	ニラン・チャンタ	バンコック	子ども、国際交流
32	FON	サック・ノスリ	ナン県	子ども、貧困対策
33	ELF	チャイチェン	チェンマイ	国際交流
34	AFS-Chang Mai	チャイワット	チェンマイ	国際交流
35	AFS-Lampang	スラボン・プクディ	ランパン	環境
36	AFS-Udontani	サン・セン	ウドンタニ	国際交流
8	中国			
37	CHAFS	羅 紅光	北京	子ども、環境
38	AFS Hong Kong	調整中	香港	国際交流
39	AFS Uighur	ユスフ・エム・デオラ	ウルムチ	貧困対策、国際交流
9	ネパール			
40	HARD	S.マナダール	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
41	AFS-Nepal(Green Scout Nepal)	ラジャン・M・マッラ	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
10	パキスタン			
42	PAFS	C.H.ナディーム	イスラマバード	水、子ども、災害復興
11	バングラデシュ			
43	AFS-Bangladesh	S. チョウドリー	チャンドラゴーナ	水、貧困対策
44	AFS-Dhaka	M.フェローズ	ダッカ	水、子ども、貧困対策、環境
45	AFS-Chittagong	I.チョウドリー	チッタゴン	国際交流
46	BDP	アルバート・マラカル	ミルプール	水、子ども、貧困対策、災害復興
47	AFS-BIWM	ムンスール・ラーマン	ダッカ	水、子ども、災害復興
12	フィリピン			
48	KALIPi	ジミー・クナナン	ヌエバエシハ州サンフェルナンド	水、貧困対策、環境、災害復興
49	AFS-Pandan	ネリ・サラビア・レクタラ	アンティーク州パンダン	水、子ども、環境、貧困対策
50	AFS-Virac,Catanduanes	ランド・グロバット	カタンドゥアネス州ビラク	水、環境、災害復興
51	AFS-Manila	ジュアン・グロバット	マニラ市	国際交流
52	AFS-Zamboanga	エメリタ・バシリオ	南サンボアンガ州サンボアンガ	国際交流
53	Asian Social Institute	ミーナ・ラミレス	マニラ市	子ども、貧困対策、環境、災害復興
54	AFS-Davao Oriental	レイナルド・ギタカイ	東ダバオ州ダバオ・オリエンタル	国際交流
55	AFS-Aklan	エミリー・アランゴテ	ア克蘭州イバハイ	子ども
56	AFS-Southern Antique	ビクター・デ・グラシア	アンティーク州サンホセ	子ども
57	AFS-UMD	ジーナ・ヤップ	ソルソゴン州マトノグ	子ども、環境、貧困対策
58	AFS-Antique	ジェネロッサ・コンデス	アンティーク州	貧困対策、環境
59	AFS-Guimaras	ヴィック・デ・グラシア	ギマラス州	環境
60	AFS-Kabankalan	エライザ・ベルナオーラ	西ネグロス州	環境
61	AFS-Tacloban	ロウェナ・ロセ	レイテ島タクロバン	貧困対策、災害復興
13	ベトナム			
62	VAFS	ルー・バン・ロック	ホーチミン	貧困対策、子ども
63	Cantho 大学	ドン・バン・ニー	カントー	貧困対策
14	マレーシア			
64	AFS-Malaysia	リム・チャイ・ホン	ペナン	環境、災害復興

<u>15</u>	<u>ミャンマー</u>			
65	MAFS	ヤム・コーパウ	ヤンゴン	水
<u>16</u>	<u>モンゴル</u>			
66	MoAFS	エンフトヤ	ウランバートル	貧困対策
<u>17</u>	<u>ラオス</u>			
67	LPRYU	ワンペン・クンボーライ	ビエンチャン	水、子ども
<u>18</u>	<u>アフガニスタン</u>			
68	AAFS	ラハマット	ジャララバード	貧困対策



第 24 回アジア国際ネットワークセミナー カンボジアにて
(AFS メンバーとカンボジアから様々な要職の人たち)

Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

Ⅲ－A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) 日本 東日本大震災

JAFS 東日本大震災災害復興支援

【宮城県本吉郡 南三陸町歌津地区】

南三陸を訪れる復興支援スタディツアー
震災の爪跡が残る南三陸町。みなさん館や味噌工房を訪れて、地元の方々とふれあい、地元のものを食べ、復興に向けて歩み出している状況また、震災当時の様子、活動内容をスタディツアーの形で伝えている。

日程： 2014年5月17日～18日

参加者数：大阪ガス職員（18名） 本会スタッフ（1名）

(2) フィリピン 台風ハイエン

AFS-PANDAN 被災者のためのシェルター建設事業

【アンティーク州パンダン町、セバステ町、ティビアオ町】

2014年11月に発生した台風ハイエンにより住居を失い、政府からも支援を受けることが出来なかった10世帯に対して、トイレ付きのシェルターを建設した。また、被災者の生活改善のためにソーラーランタンの配布を行い、電気のない山間の被災者へ配布を行った。

- アンティーク州パンダン町 3世帯
- アンティーク州セバステ町 2世帯
- アンティーク州ティビアオ町 5世帯

AFS-TACLOBAN 被災者の所得改善のための水耕栽培支援事業

【タクロバン市マラスバラス村】

タクロバン市マラスバラス町81村の被災者の収入改善のために、81村に小規模の水耕栽培圃場（幅3m、高さ2mの仰角屋根）を建設する。81村のユースグループ（台風の被害により職を失った）に対して水耕栽培及び販売のための研修を行い、販売益はユースグループの収入となる。ユースグループの選抜に関しては、現地に職を失い、本プロジェクトに意欲があり、上記の研修を受けた人になります。

※「81村」というのは村の名前で

AFS-MANILA 被災者の防災訓練のための施設視察

【ネグロス島バゴー市マラスバラス村】

ネグロス島バゴー市において、防災及び環境保全の研修を目的にした研修施設建設の土地の寄贈を受けた。今後の防災エコセンター施設建設のための研究、視察費を支援した。



ハイエン被災漁師支援のために供与されたボートの引き渡し式



パナソニックグループ労連より寄贈を受けたソーラーランタン
（アンティーク州パンダン町ボトボト村にて）



被災者の生活環境改善のために建設された仮設住居
（アンティーク州パンダン町ボトボト村）

IV. 普及啓発事業

IV-A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFS チャリティーバザール

今年度も、恒例になっている春と秋の JAFS チャリティーバザールを JR 住道駅前北側のデッキ広場で開催した。大東市の市報を通じた広報により出店を通じて本会活動を知る良い機会となった。出店だけでなく、演奏会や伝統舞踊などの披露も定着化し、地域の方々の参加できるイベントとなっている。

＜春のバザール＞

日時：2014 年 5 月 31 日（日）10：00～16：00

出店数：24 店（34 ブース）

※4/29（祝）雨天のため上記日程に順延された。

＜秋のバザール＞

日時：2014 年 10 月 26 日（日）10：00～16：00

出店数：23 店（30 ブース）

(2) 国際理解教育講座

NGO が学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2014 年年度も NGO の活動を通じた学校や団体の国際協力への参加について様々な講義・研修を行った。それぞれの学校や団体に国際協力の関心が広がり、学校や団体が地域を巻き込んだ活動に期待すると同時に個々の魅力が社会で活かすことへのきっかけづくりになることを目指す。

NGO 講師派遣 【のべ 16 か所、1,606 名】

- 5 月 29 日 第 30 期イオングループ労働組合連合会 贈水の輪フォーラム（100 名）
於：東京
- 6 月 8 日 枚方市立楠葉西中学校（520）
- 6 月 24 日 日本福祉大学講義 国際福祉開発の仕事(30)
Meeting My Roots をテーマに講義
- 6 月 24 日 アイセック神戸大学委員会
「JAFS と NGO 活動」(6)
- 7 月 2 日 大精教看護専門学校 文化人類学 国際理解授業
(39 名)
- 7 月 3 日 大精教看護専門学校 文化人類学 国際理解授業
(39 名)
- 7 月 29 日 アイセック神戸大学委員会 研究協力(3)
- 9 月 3 日 イオンリテールワーカーズユニオン第 4 期地域社会貢献フォーラム
「JAFS と KAFS の活動紹介」及びパネルディスカッション(120)
於：東京

- 9 月 8 日 アイセック大阪大学委員会
「JAFS の活動と国際協力支援」(3 名)
- 9 月 26 日 大精教看護専門学校 文化人類学 国際理解授業
(39 名)
- 9 月 30 日 アイセック神戸委員会 海外派遣員外部研修協力
(6)
- 11 月 14 日 福野小学校 井戸を通しての国際理解授業 (36 名)
於：富山県南砺市福野小学校
- 11 月 16 日 持続可能社会と NPO のファンドレイジング・協働
活動紹介とパネルディスカッション
於：大阪大学
- 2015 年
- 2 月 16 日 近畿労働金庫労働組合肥後橋ブロック勉強会 (35 名)
「本会の活動紹介及び井戸支援報告とアジアの現状」

授業受け入れ 【2校 33名】

- 6 月 21 日 松原高等学校 (16 名+教員 1 名)
国際理解授業（「児童労働」グループ学習発表）
- 12 月 12 日 大手前高等学校 (15 名+教員 1 名)
国際理解授業（集中セミナー）

(3) JAFS インド文化センター

インド文化センターはインドの文化、思想の紹介を図り、日印間の相互理解と文化交流を促進し、インド文化愛好者相互の親睦を目的として 1987 年設立され、137 回の例会が行われたが、2003 年に閉会した。2005 年本会の国際理解・文化事業の一環として JAFS インド文化センターが新しく発足。インドの歴史、宗教思想、文化の多様性と奥行きを日本の方に楽しく親しく広く学べる場として、宗教、思想や芸術にくわえ、古代の占い、暦、天文学、数学、医学を取り上げている。

引き続き、連続講座を予定していたが、講師等の都合により延期している。

(4) アジア文化理解講座

国際協力を一般の人が身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

◆アジア家庭料理教室◆

2014 年度はアジア 13 地域 19 回のアジア家庭料理教室を行い、延べ 275 名の参加を得た。

会場：クレオ大阪西 調理室

- 4 月 8 日、17 日 沖縄 参加者 28 名
講師：長浜雅子 氏、松永啓子 氏
- 5 月 13 日 フィリピン 参加者 16 名
講師：ヴィヴィアン 氏

IV. 普及啓発事業

6月10日、19日	ネパール 参加者30名 講師: 天野バダマ 氏
7月8日、17日	イラン 参加者27名 講師: ナスタラン スミ 氏
8月21日	中国新疆ウイグル自治区 参加者22名 講師: ジャミラ ウライム 氏
9月4日、12日	ベトナム 参加者24名 講師: ブイ タン ハン 氏
10月17日	タイ 参加者17名 講師: 水野ブンルアン 氏
11月20日	インドネシア 参加者12名 講師: シャフウイナ 氏
12月9日、18日	内モンゴル自治区 参加者24名 講師: 劉偉 氏
1月22日、27日	上海 参加者27名 講師: 林 玉婷 氏
2月3日	韓国 参加者12名 講師: 権 よし子 孫 君子 氏
2月28日	スリランカ 参加者20名 講師: マドゥランガ グナセカラ 氏 ラックスマン フェルナンド 氏
3月19日	インド 参加者16名 講師: ナゼマ トラバリー 氏

(5) インターンシップ プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入 【3校6名】

◆甲南女子大学 (1名)

1)「文学部多文化コミュニケーション学科ボランティア・インターンシップ体験演習Ⅲ」

5月22日～12月19日の間で、60時間以上の実習を行った。今年度は、「飲料水供給(井戸)支援」をテーマとして、広報展示資料作成を通じたボランティア体験実習を行った。

5月20日 インターン演習説明会

5月23日～12月19日 実習期間

内容:「井戸の支援を多くの人に知ってもらいたい」との実習生の希望により、小学生にその大切さを知ってもらうための展示資料を作成。

◆神戸学院大学 (1名)

「総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科 ヒューマンサービス実習」

6月29日～12月6日の間で 168時間の実習をおこなった。事務所での事務作業の補佐及びチャリティーイベント、地区活動においての実習をおこなった。

8月20日 実習オリエンテーション

8月20日～12月6日 実習期間

3月 実習報告会

◆大阪経済大学 (4名)

「国際協力とボランティア」体験実習

後期「国際協力とボランティア」の体験学習の一環としてのボランティア実習受け入れを4名行う。

10月14日～11月16日の期間1名あたり24時間以上の実習を行い、国際ボランティア団体の活動を理解する実習。

JAFS 事務局での事務補佐及び実習期間1回は地域での活動にも参加し、市民による国際協力団体の国内外における活動を実施。

10月10日 実習オリエンテーション

1月23日 「国際支援とボランティア」報告会参加

(6) 国際協力ボランティア講座

◆JAFS 国際ボランティア市民講座◆

本会のこれまでの経験と実績を活かし、今後の国際ボランティア活動を目指す人たちの人材育成のための養成講座を実施した。

第1回講座 2015年1月25日 参加者3名

テーマ:国際ボランティアについて意義と目的

第2回講座 2015年2月23日 参加者6名

テーマ:国際ボランティア活動と今日的課題

第3回講座 2015年3月25日 参加者3名

テーマ:国際ボランティアの理論的背景～地球運命共同体論～

(7) 関連プログラム／その他団体協力

◆(特活) 関西国際交流団体協議会

- 1) 加盟し、理事として理事会出席、協力活動を行っている。
- 2) 「NPO による ESD 実践と若者人材育成イニシアティブ」研究委員会の委員として、研究会参加及び事業に携わる。

“持続可能な社会の作り方”～若者のための ESD 実践資料集への発行協力(執筆、インタビュー)

3) ワン・ワールドフェスティバル 2014

1993年より毎年大阪で開催、今年21回目を迎えた。関西の NGO、NPO、国際機関、企業などが参加し、国際協力・交流活動を幅広く紹介するとともに、参加者が地球規模の課題に対して行動するきっかけの場となることを目的としている。本会は実行委員会の一員として、活動紹介展示、民族料理屋台、企画プログラムにて参加協力した。

期 間:2015年2月7日(土)、8日(日)

場 所:関西テレビ、扇町公園周辺

来場者:16,500名(2日間延べ人数)

主 催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

内 容:

① NGO 活動紹介ブース

来場者を対象に活動紹介とワークキャンプ参加者、ボランティア募集の告知とアジアグッズの販売を行った。

② 民族料理模擬店出店

JAFS ファミリーグループ(スリランカ・サルボダヤ支援会、Paon)が協力し、アジアの料理(担担麺、チャイ、ゴードンパロディ、アジア風から揚げ)を販売した。収益をアジアへの支援金にあてるとともに、食を通してアジアの理解を深めた。

IV. 普及啓発事業

③セミナー『マイクロファイナンスシンポジウム』
 本会スタッフ横山浩平が実施プログラムのパネリストとして参加。

◆(特活) 関西 NGO 協議会
 加盟し、理事として理事会に出席、協力活動を行う。

◆公益財団法人自治体国際化協会
 アドバイザーとして協力活動を行っている

◆公益財団法人大阪府国際交流財団
 評議員として評議員会出席。協力活動を行っている

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議 (KIV-NET)
 加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

◆国際協力 NGO センター (JANIC)
 正会員として加盟し、協力活動を行っている。
 グローバルフェスタ JAPAN2014」は、国際協力をより身近なものに感じるくとともに、国際協力の現状・必要性などについての理解と認識を深めていくことを目的としたイベント、「グローバルフェスタ」に 2007 年より JAFS 関東として展示・飲食物参加
 会員 14 名参加、収益金をミャンマー井戸建設に協力入金した。

◆認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム (JPF)
 NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。

◆ネパール NGO ネットワーク (4N)
 加盟し、協力活動を行っている。

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動、理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることが目指し、多岐にわたり地域活動が行われてきた。中には 20 年以上、活動を継続している地域もあり、益々の広がりを見せている。

- 第 1 エリア：大阪府北部、兵庫県東部
- 第 2 エリア：大阪府東部
- 第 3 エリア：大阪市内
- 第 4 エリア：大阪府東南部
- 第 5 エリア：京都府、滋賀県
- 第 6 エリア：武庫川以西の兵庫県
- 第 7 エリア：奈良県、東大阪、八尾
- 第 8 エリア：大阪府西南部
- 第 9 エリア：和歌山県、西日本
- 第 10 エリア：東日本

(1) エリア世話人会・全体地区世話人会

◆エリア世話人会◆ 計 3 回実施 13 名

定例会：4 月 15 日、5 月 20 日、6 月 17 日
 各地区世話人の内より、エリア毎に委任されたエリア世話人(各エリア 2〜3 名程度)で構成、エリア内の各地区世話人との情報交流、連絡調整を計り、事務局と地区のパイプ役をつとめる。また、地域活動における事務局事務(主として連絡、広報)を補佐を行なう。

◆全体地区世話人会◆ 年 1 回
 日程：7 月 5 日(土)〜6 日(日)
 会場：研修 JAFS 事務局 懇親 美山楽舎
 テーマ：『さあ、やりましょか！ Let's work and enjoy!』
 ～JAFS 活動 35 周年～
 出席者数：研修 19 名、懇親 22 名

(2) 地区世話人一覧

※印 エリア世話人		
エリア	地区	氏名
1	尼崎	天野澄子、黒谷侑子
	池田	石原基義
	高槻	内藤肇、西川龍夫、三阪パニダー
	豊中	豊田祥二、大谷利恵子
	箕面	平瀬勢丈
2	門真	友松千草
	四條畷	小柳二郎
	寝屋川	菅原直樹、根津千枝子、畠山ひろみ、船曳正之、松山博子
	枚方	明見睦子、天野由紀代※、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子
	守口	大野賢信、真田朱美、二野英子
3	大阪市	篠塚達朗※、福岡好嗣
4	河内長野	今井利子※
	藤井寺	森わか子
	松原	橋本末子※、六車勝三
	美原	田中千鶴子※、中嶋啓子
5	宇治市	柿木良昭※、杉林則子、田中紀代三※ 桜屋敷寛子
	京都市	菅 洋子、高田晃宏
	野洲郡	深田陽一
	八幡市	福川 肅
	綾部市	塩尻昭枝
6	三田	芝野照久、堀 正之
	西宮	岡田 昂※、斎藤芙美子、平山隆史
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
7	生駒市	青木美千代、山田いづみ※、有山京子
	奈良市	高以良泰治、野口明英
	東大阪市	坂上やよひ※、南野紀美子
8	高石	佐藤満昭
	堺	幾谷真嬉子、久保幸子

IV. 普及啓発事業

9	新宮	瀧野秀二、瀧野三重子、中西 洋
	田辺	小森茂之
10	広島	宇田和博
	名古屋	清水三千夫
	瀬戸	壁谷桂子
	宮崎県	黒木隼彦
	東京	川崎隆二

(計 69 名)

(3) 第1エリア

【尼崎】天野澄子、黒谷侑子【池田】石原基義【高槻】内藤肇、西川龍夫、三阪パンダー【豊中】川良幸子、豊田祥二、【箕面】平瀬勢丈

4月26日	地区世話人会	於：JAFS
5月5日	中山寺子どもフェス フェスティバル参加	於：大本山 中山寺
6月14日	打ち合わせ会	於：JAFS
7月13日	七夕まつり	於：豊中駅周辺
8月23日	豊中祭り	豊島公園『市民ふれあい広場』
10月25日	豊中地区茶話会	於：環境センター
12月8日	第1, 6エリア合同世話人会	於：JAFS
2015/1/17	第1エリア新年会	於：霊松寺

(4) 第2エリア

【第2エリア合同】

2015年	第2エリア お花見懇親会
3月29日	於：枚方市立楽寿荘 参加者：12名

<植林実行委員会 “JAFS 北河内 緑とふれあう会” >
(会長：佐々木実、副会長：笠谷正博、虫明慧悟、小笠原
会計：吉田幸子、書記：天野由紀代)

4/12	じゃがいも、ショウガの植付、草取り
4/26	枝豆の植付、耕運機の説明・実習、草取り、野菜の 収穫(葱・ニラ・春菊・豆他)
5/10	草取り、野菜の収穫(ニラ・春菊・豆他)
5/24	玉葱の一部収穫、野菜の収穫(葉玉葱、ニラ、葉付 人参他)
6/7	“田植えに挑戦してみよう” 田植え、軽食
6/14	草取り
6/21	“御殿山神社を紫陽花で彩ろう” 紫陽花植樹(於： 御殿山神社)
6/28	じゃがいもの収穫、さつまいもの植付、草取り、野菜 の収穫(人参・紫菜・ネギ・ニラ他)
7/12	垣根の手入れ、夏大根の種まき、野菜の収穫(人 参・牛蒡他)
7/26	田んぼの土手の草刈り、さつまいも畑の草取り、野 菜の収穫(枝豆・トマト・紫菜他)
8/9	台風による雨のため中止
8/23	枝豆の支柱建て、田んぼの草取り、さつまいも畑の

9/13	草取、 秋野菜の種まき、あぜの整理、草取り、野菜の収穫
9/27	草取り、野菜の収穫
10/11	“稲刈り体験してみよう” 稲刈り、軽食
10/25	野菜への施肥、わら集め、もみ殻運搬、草取り、野 菜の収穫(枝豆・トウモロコシ・大根等)
11/1	雨のため中止
11/9	雨のため中止
11/10	“芋ほり&収穫祭” さつまいも堀、収穫祭食事
11/15	みかん狩り、草取り
11/22	みかん狩り、草取り
12/13	草取り、野菜の収穫(大根・蕪・人参他)
12/14	寝屋川多文化フェスティバル参加 みかん・大根・ 蕪の販売
12/23	お正月野菜の収穫(大根・人参・白菜・里芋他)
1/10	あぜにもみ殻を入れる、玉葱の畝の草取り、野菜の 収穫(大根・蕪他)
1/24	ミカンの木の移植、玉葱に施肥、草取り、野菜の収 穫(大根・人参・白菜他)
2/14	建屋のコンクリート打ち、玉葱の畝の草取り、野菜の 収穫(大根・人参・白菜他)
2/28	ミカンの木の移植、玉葱の畝の草取り、野菜の収穫 (桜島大根・辛子菜・野沢菜等)
3/14	2014 年度総会
3/28	じゃがいもの植付、畝づくり、玉葱の畝の草取り

※ 必要に応じて臨時作業あり/ 野菜栽培のための建屋建設をする

第4土曜日に実行委員会を行う

【守口】(大野賢信、真田朱美、二野英子)

4月2日(水)	守口例会 18:00～	国際交流センター
4月5日(土)	桜まつり参加	守口市下島公園
4月20日(日)	フリーマーケット参加	橋波商店街
5月7日(水)	守口例会 18:00～	国際交流センター
5月10日(土)	ダンジリ祭り 前夜祭 参加	カナデアンスクエア
5月11日(日)	ダンジリ祭り 参加	カナデアンスクエア
5月24日(日)	チャリティ100円市 参加	橋波商店街
5月31日(土)	JAFS チャリティバザー 参加	住道北則 デッキ広場
6月4日(水)	守口例会 18:00～	国際交流センター
7月2日(水)	守口例会 18:00～	国際交流センター
7月26日(土)	松波商店街夜市 参加	橋波商店街
8月6日(水)	守口例会 18:00～	守口事務所にて
9月15日(日)	チャリティフリーマーケット参加	橋波商店街
9月27日(土)	チャリティ100円市 参加	橋波商店街
10月8日(水)	守口例会 18:00～	国際交流センター
10月11日(土)～12日(日)	秋季守口親睦会	洞川温泉(天川村)
10月26日(土)	JAFS チャリティバザー 参加	住道北則 デッキ広場
11月2日(日)	守口市市民祭り 参加	守口市駅前
11月5日(水)	守口例会 18:00～	国際交流センター

Ⅳ. 普及啓発事業

11月16日(日) 国際交流フェスティバル 参加
守口市駅前 カナデアンスクエアー
12月5日(水) 守口例会 18:00～
柿右衛門
12月14日(日) 国際交流センター 懇親会
守口中央公民館
2015年
1月10日(土) 大戎さんお参り(有志) 大宮神社
1月11日(日) 餅つき大会 事務所前
1月24日(土) チャリティ100円市 参加 橋波商店街
1月25日(日) 大商業祭 参加 守口 門真商工会議所
2月5日(水) 守口例会 18:00～ 国際交流センター
3月4日(水) 守口例会 18:00～ 守口事務所
3月22日(日) チャリティガラージセール 守口事務所前

【四條畷】(小柳二郎)

地区単独の活動が難しい状況が続いているが積極的にエリア共同プログラムに参加し、活動の幅を広げていきたいと考えている。

2015年 第2エリア懇親会参加 (お花見)
3月29日 於:枚方市 楽寿荘

【枚方】(吉田幸子、天野由紀代、船戸康夫、虫明慧悟、明見睦子、佐々木実)

5月10日 地区世話人会
6月22日 地区世話人会
7月20日 地区世話人会
8月23日～24日 枚方まつり チャリティー参加
23日JAFSネパールへのかけ橋
24日枚方地区会 於:枚方市駅前岡東中央公園
8月28日 地区世話人会
9月21日 枚方NPOフェスタ チャリティー参加
於:枚方市駅前岡東中央公園
9月28日 地区世話人会
10月27日 地区世話人会
11月24日 ウォーカーソン(寝屋川・枚方共同企画)
11月30日 地区世話人会
12月14日 寝屋川多文化フェスティバル チャリティー参加
於:寝屋川市民会館
2015年2月1日 地区世話人会
2月22日 寝屋川バルーンフェスティバル チャリティー参加
3月1日 第29回枚方ぞうすいの会
「フィリピン・マングローブ植林ワークに参加して」
お話:笠谷正博さん 於:枚方公園青少年センター
3月29日 第2エリア懇親会 於:楽寿荘
以上の活動によりネパールに井戸1基を寄贈することができた。

【寝屋川】(笠谷正博、畠山ひろみ、船曳正之、根津千枝子、松山博子)

4月27日 寝屋川地区定例会 於:市民活動センター
5月30日 ソロプチミスト大阪北東チャリティーコンサート&バザー
チャリティー参加
於:ホテル アゴーラ大阪守口
7月2日 寝屋川地区定例会 於:市民活動センター

8月24日 枚方祭り協力参加 於:枚方岡東公園
8月26日 寝屋川地区定例会 於:市民活動センター
9月26日 寝屋川地区定例会 於:市民活動センター
10月30日 寝屋川地区定例会 於:市民活動センター
11月8日 市民活動センターふれあいフェスタ活動展示
於:市民活動センター
11月23日 ふらっとねやがわまつり活動展示他
於:ふらっとねやがわ
11月24日 枚方・寝屋川合同ウォーカーソン
「枚方の歴史をめぐるウォーカーソン」 於:枚方市
12月14日 寝屋川多文化フェスタ 実行委員及びチャリティー参加
於:寝屋川市民会館
1月25日 寝屋川地区定例会 於:市民活動センター
2月1日 寝屋川地区定例会 於:市民活動センター
2月22日 バルーンフェスティバル
チャリティー参加 於:寝屋川市立第5中学校
3月8日 寝屋川地区定例会 於:市民活動センター
3月15日 ぞうすいの会「私のリタイアメントライフ in フィリピン」
スピーカー:大本和子さん
於:市立産業振興センター
3月29日 第2エリアお花見懇親会
於:枚方市立楽寿荘
以上の活動によりネパールへバイオガス2基を寄贈できた。

(5) 第3エリア

【大阪市】(篠塚達朗、齊藤かおる、福岡好嗣)

6月7日 まいど!大阪おもしろツアー
「西横堀を歩く」参加:27名
7月17日 はもすきの会 参加:13名
8月24日 みんなの水の文化祭(東淀川区) 参加
9月27日 まいど!大阪おもしろツアー
「東横堀を歩く」 参加:25名
10月18日 里子の手紙を読む会 参加:8名
12月13日 まいど!大阪おもしろツアー
「大阪冬の陣と真田丸」参加:36名
1月8日 新年会 参加:8名
まいど!大阪おもしろツアー
1月12日 「特別企画:大阪七福神めぐり」 参加:32名
3月7日 まいど!大阪おもしろツアー
「天王寺七坂」 参加:23名

<定例会>

毎月第3木曜日に本会事務局にて定例会合を開催(合計10回)

(6) 第4エリア

【河内長野】(今井利子)

2015年 河内長野市ボランティアフェスティバル参加
2月22日 於:河内長野市立市民公益活動支援センター
“ボランティアフェスティバル”では、アジア子ども絵画の展示、および本会の最新の支援活動を展示 PR し、アジア雑貨のチャリティ販売を行った。

IV. 普及啓発事業

【松原】(橋本末子、森わか子、田中愛子)

JAFS 松原ブログで「JAFS 松原どうすいの会」の活動予告・報告を逐次掲載。2015 年 3 月 22 日に 70 回記念 JAFS 松原どうすいの会を開催。第 6 基目井戸をフィリピンに寄贈。定期的な「どうすいの会」は終了し、今後は不定期どうすいの会、寄贈井戸の村訪問のスタディツアーなどの企画を予定。松原市ボランティア連絡会（以降＝松原 V 連）に加盟、会計担当。JAFS 松原どうすいの会の協賛、講師謝礼、会場無料提供の助成を受けた。本年度より松原市の方針で参加費が食材費のみとして 300 円となった。にもかかわらず各回の料理は豪華になってきた。「どうすいの会」チラシは第 67 回目より V 連加盟者の協力を得てグレードアップ。

- 4 月 19 日 松原 V 連 4 月例会
- 4 月 20 日 松原 V 連 総会
- 5 月 17 日 松原 V 連 5 月例会
- 5 月 26 日 「第 67 回 JAFS 松原どうすいの会 参加 31 名」
ゲスト: グラハム ヘンリー氏(北アイルランド)
話題: 「北アイルランド紹介」
料理: アイリッシュブロス、ソーダブレッド
於: 松原市立総合福祉会館 2 階
- 6 月 21 日 松原 V 連 6 月例会
- 7 月 19 日 松原 V 連 7 月例会
- 7 月 29 日 68 回松原どうすいの会 JAFS 於て打ち合わせ 森宅にて
- 8 月 9 日 松原 V 連 8 月例会
- 8 月 31 日 「第 64 回 JAFS 松原どうすいの会」(参加者 39 名)
ゲスト: 西田ニレシュニさん (フィジー)
話題: ブラ・フィジー ～南太平洋の楽園へようこそ～
料理: チキンスープ、ターメリックライス、マンゴプリン
於: 松原市立総合福祉会館 2 階
- 9 月 21 日 V 連 9 月例会&第 1 回「ボランティア講座」
松原 V 連 10 月例会
- 10 月 18 日 松原 3 中学校区フェスタ打ち合わせ
- 10 月 28 日 「松原第 3 中学校区フェスタ」
- 11 月 1 日 ・パネル展示
・フレンドサポート(JAFS 里親ナラ募金)
・チャリティセール (揚げバナナ販売)
- 11 月 15 日 松原 V 連 11 月例会
- 12 月 12 日 第 69 回どうすいの会打ち合わせ (ゲスト陳力氏)
- 2015 年
- 1 月 14 日 松原青年会議所新年互礼会出席
- 1 月 17 日 松原 V 連 1 月例会
- 1 月 24 日 第 69 回 JAFS 松原どうすいの会(参加者 20 名)
ゲスト: 陳 力 氏(中国)
- 2015 年
- 1 月 24 日 話 題: 中国の風景～都市と顔
料 理: 水餃子、トマトと卵スープ入り麺スープ
於: 松原市総合福祉会館 2 階
- 2 月 28 日 第 70 回松原どうすいの会打合せ
ゲスト マリアさん 森宅
- 3 月 14 日 松原 V 連 3 月例会

- 3 月 22 日 「第 70 回記念 JAFS 松原どうすいの会」
(参加者 73 名)
記念式: フィリピンに井戸贈呈
JAFS 松原ヒストリー
パーティ: ゲスト マリヤさんのドウマゲテイ紹介&ダンス
料理: アロスカルド、ルンビアンシヤンハイ、プート
於: 松原市立総合福祉会館 2 階

【美原】(中嶋啓子、田中千鶴子)

- 5 月 22 日 地区懇親会
- 11 月 1 日 みはら区民まつり (旧美原おもろいデー) に参加

【富田林】(沖田文明)

富田林地区会「ラリグラス」では 2014 年度も各地のチャリティバザー参加や地域の方々の協力によりアルミ缶のリサイクル活動を中心に活動しました。今アルミ缶は 1 キログラム 120 円程度で推移しています。円安の影響で値上がりしています。これらの活動は、ネパールに学校を建設する為に地域の方々と共に取り組んでいます。2014 年はネパールに 4 校目となる学校建設資金を寄付しました。

- 4 月 29 日 JAFS チャリティバザー参加
- 11 月 16 日 津々山台公園「地域の輪祭り」にバザー参加
- 4 月～ 毎月 28 日
- 2015 年 3 月 滝谷不動尊縁日にリサイクルバザーを開催
於: 滝谷不動尊駅前

(7) 第 5 エリア

【京都・宇治・野洲】(菅洋子、柿木良昭、櫻屋敷寛子、塩尻昭枝、杉林則子、田中紀代三、福川肅、深田陽一)

- 4 月 26 日 京都地区会 於: メルパルク京都
- 5 月 10 日 ダンヒル 活動報告 於: ウイングス京都
- 7 月 12 日 京都チャリティパーティ 於: 京都教会
『フィリピンで暮らして
～最貧困層での保育所活動からみえてきたもの～』
ゲスト: 大本和子氏
- 8 月 4 日 京都地区会 於: メルパルク京都
- 8 月 18 日 京都地区会 於: メルパルク京都
- 8 月 28 日 会場下見・打合せ 於: 今アバンティ響都ホール
- 9 月 5 日 チャリティコンサート講演案内記事掲載依頼
於: 新聞社(5 社)
- 9 月 8 日 コンサート協力依頼 於: ユニチカユニオン
京都地区会 於: メルパルク京都
- 9 月 24 日 京都地区会 於: メルパルク京都
- 9 月 26 日 コンサート協力依頼 於: 京阪ホテル
- 10 月 4 日 京都チャリティ公演 於: アバンティ響都ホール
『フィリピンストリートチルドレンの教育支援

IV. 普及啓発事業

チャリティコンサート』

出演者: サウンドオブピース

パシナヤフィリピンパフォーミングアートグループ

- 10月27日 京都地区会 於:エルイン京都
 12月6日 ダンヒルチャリティパーティ参加 於:都ホテル
 1月17日 パシナヤチャリティコンサート協力・募金活動
 於:千里市民センター
 2月10日 フィリピンスタディツアー参加 於:フィリピン
 ~12日

(8) 第6エリア

【西宮】(岡田昂、大木洋子、斉藤美美子、畠中美代子、平山隆史)

- 4月29日 活動パネル展示とバザー参加
 於:西宮中央教会 ふれあいマーケット
 5月29日 西宮市内 JAFS 会員ミーティング 事前打合せ
 於:阪急西宮北口駅近辺
 6月8日 西宮市内 JAFS 会員ミーティング
 於:西宮市中央公民館
 7月14日 スタッフ会 アジアンパーティ準備計画打合せ
 於:阪急西宮北口駅近辺
 8月16日 スタッフ会 アジアンパーティ準備打合せ
 於:西宮市中央公民館
 8月23日 Asian Party in 西宮 2015 (26名)
 於:西宮市中央公民館
 10月6日 スタッフ会 次回どうすいの会検討打合せ
 於:阪急西宮北口駅近辺
 2月8日 西宮国際交流デーに参加
 活動パネル展示、JAFS物品等販売
 於:西宮フレンテ
 3月15日 スタッフ会 3月どうすいの会準備打合せ
 於:阪急苦楽園口駅近辺
 3月22日 どうすいの会インド編(18名)
 ゲストスピーカー ArunChudgar さん
 於:西宮市中央公民館

【神戸】(鈴木誠也)

- 2015/2/15 神戸どうすいの会
 ゲストスピーカー 小久保愛海さん
 於:神戸学生センター

【姫路】(森 梢、荒川鉄也、中尾和子)

定例会:毎月第1木曜日 19:00~

場所:イーグレ姫路 ボランティア活動室

- 4月3日 4月地区世話人会
 於:イーグレ姫路
 5月1日 5月地区世話人会
 於:イーグレ姫路
 6月5日 6月地区世話人会
 於:イーグレ姫路
 7月3日 7月地区世話人会

アジア料理打ち合わせ

於:イーグレ姫路

- 8月1日 8月地区世話人会
 於:イーグレ姫路
 8月9日 アジア料理教室
 於:イーグレ姫路・調理室
 9月4日 9月地区世話人会
 於:イーグレ姫路
 10月2日 10月地区世話人会
 ウォークソン打ち合わせ
 於:イーグレ姫路
 26日 国際交流フェスティバル参加
 姫路ウォータムフェスティバル)
 (チャイ、フェアトレード物品、南三陸物品)
 於:大手前公園
 11月8日 ウォークソン
 河合寸翁と姫路城周辺史跡
 12月4日 12月地区世話人会
 於:イーグレ姫路
 2月5日 スプリングフェスティバル打ち合わせ
 於:イーグレ姫路
 3月1日 姫路スプリングフェスティバル参加
 チャイ・フェアトレード物品
 於:イーグレ姫路

(9) 第7エリア

【奈良・生駒・大和郡山】(青木美千代、有山京子、高以良泰治、野口明英、山田いづみ)

- 4月19日 奈良地区会 春の宴 於:山田会員宅
 5月11日 風人の祭 出展 於:生駒コミュニティセンター
 東大阪ふれあい祭り 出展 於:東大阪市
 5月30日 奈良地区5月例会 於:奈良中部公民館
 6月27日 奈良地区会 於:奈良中部公民館
 7月18日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
 7月28日 第7エリア例会 於:生駒アイビー
 8月2日 生駒どんどこ祭り 出展 於:生駒健民グラウンド
 8月4日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
 8月20日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
 9月4日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
 9月13日 生駒地区 夜の歌声サロン 於:アイビー
 10月30日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
 11月1日 生駒地区 インド舞踊 於:アイビー
 11月6日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
 11月7日 奈良地区例会 於:奈良中部公民館
 11月15日 生駒地区 夜の歌声サロン 於:アイビー
 11月18日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
 11月19日 東大阪どうすいの会 於:パル
 11月22日 生駒地区シャルマさん占い 於:アイビー
 12月5日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
 12月12日 生駒地区 ベリーダンス 於:アイビー
 12月22日 生駒地区 気功 於:アイビー
 1月8日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー

IV. 普及啓発事業

- 1月13日 生駒地区 節税のお話 於:アイビー
1月19日 奈良地区月例会&新年会 於:奈良中部公民館
1月23日 生駒地区 夜の歌声サロン 於:アイビー
1月26日 地区会議 於:奈良市
1月28日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
2月4日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
2月11日 竹送りウォーク
於:京田辺市及び奈良市
奈良ぞうすいの会 於:今小路会館
お話:『1基の井戸がインドを救う!』
講師:JAFS 海外ボランティア研修生 小久保愛海氏
3月3日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
3月27日 生駒地区 歌声サロン 於:アイビー
3月29日 生駒地区 馬頭琴 於:アイビー

(10) 第8エリア

【和泉市・堺市・高石市・泉大津市】(幾谷真嬉子、久保幸子、佐藤満昭)

- 5月5日 さつきまつり 参加 於:山之口商店街
7月19日 第6回ギターサマーコンサート
～一滴の水からはじまる自立の支援～
出演:ギターアンサンブル Part II 他
於:堺市東文化会館
10月19日 堺まつり 参加 於:山之口商店街
1月2日 家原寺 街頭募金活動 応援
3日 於:家原寺

(11) 第9、10エリア

【東京】(岩田芳晴、高岸泰子、長谷川雅子、雨宮義人、端無勝、菊池美智子、田中政直、小島学、川崎隆二、佐藤理香、森山涼子、石田雅昭、原京、武田明沙香)

- 5月17日 関東最大のパワースポット高尾山で、初夏の清々しい空気の中、若葉の萌える登山路を歩いて自然を満喫。修験道の聖地・薬王院では、飯縄大権現様のご利益を授かり、クライマックスは、山頂から見わたす関東平野の大パノラマと、絵はがきから取り出したような富士山の素晴らしい眺望!ハイキングを楽しみながらの気軽な国際貢献に、みんな大満足でした
6月28日 委員会
5月事業 高尾山チャリティーハイキング報告
7月事業 チャリティーコンサート設営方法
8月事業 小谷村ワーク
・事務局からのプロジェクト協力要請6人
於:カンティプール (渋谷)
7月5日 瀬田敦子チャリティーコンサート
代官山教会 (代官山) 75名
8月29日～ 「共働学舎」は、いろいろなハンディを持った人が共に働き、生活するコミュニティです。北アルプスの山里で、泥と汗にまみれ、共働学舎のメン

バー達と、早朝から家畜の世話、農作業のお手伝いをします。今回は、学習塾 S.E.アカデミーの講師・生徒さんを中心に、18名が参加。楽しい3日間を過ごしました。
(長野県白馬)

- 9月1日 KAFS (カンボジア) スタッフコーン氏を迎えて歓迎・交流会 12名 (品川)
8日 委員会開催 参加委員6名。
8月事業 小谷村ワーク 報告他
9月事業 チャリティーウォーク
10月事業 グローバルフェスタ
・ムスカ村プロジェクト 6人
於:カンティプール (渋谷)
9月20日 浜離宮・芝離宮恩賜庭園チャリティーウォーク (中央区)
浜離宮は、将軍家の鷹狩場として整備され、浜御殿とも呼ばれた江戸時代の代表的な大名庭園。コスモスが一面に咲き誇るこの時期に、国の特別史跡にも指定された、潮の満ち引きで趣の変わる潮入庭園をガイドさんの案内で楽しみました。カレッタ汐留の展望フロアから見た眺めも最高!日本をもっと知り、国際貢献もできて大好評でした
10月5日～ グローバルフェスタは、国際協力への理解と参加を呼びかける国内最大級のイベントです。今年も、JAFS の国際協力活動・国内活動の紹介と、ベトナム麺料理「ブン スウォン」や、世界のビールなどのチャリティー販売を行いました。お手伝いくださったボランティアの皆さんの活躍で、ブースは大盛況。ミャンマー・サガイン県の井戸建設目標達成に大きな寄与ができました 日比谷公園)
6日 ホームパーティー (端無宅)
10月26日
11月22日 JAFS 関東チャリティーパーティー話: 武田さんスタディツアーへの参加報告など、メンバの活動状況を共有しながらの「楽しいお食事会」です。今回は、フィリピンでのマングローブ植林交流ツアーから帰国されたばかりの武田さんから、ホットな参加報告。土壌浸食を防ぎ自然生態のサンクチュアリ再生を目指す植林活動、現地の村人との交流、フィリピンの現実～現地で見えた負の側面など、興味あるお話を伺いました!!
JAFS 関東新年会 5人
カンティプール (渋谷)
2015年
1月31日 委員会
3月3日 JAFS 関東 端無活動委員長3年間ありがとうございました。
新体制は代表: 石田雅昭氏、長谷川雅子委員長、川崎隆二副委員長

Ⅳ. 普及啓発事業

3. 広報

(1) アジアネット

アジア各地で井戸建設や植林などを展開している本会の事業を年4回発刊の会報「アジアネット」で紹介。国内活動の記事を掲載していた「JAFS プラザ」を2014年12月の冬号から「アジアネット」に吸収して一本化した。会報のサイズをB5版からA4版に拡大し読みやすとした。

《アジアネット発行実績:各号5,000部》

◆118号 2014年 7月発行

- 表紙写真 バングラデシュの女の子
- 巻頭言 物量では測れない JAFS の友情と連帯
- 皆さまのおかげで！ 2013 年度完成海外・国内プロジェクト
「水」事業、「子ども」事業、「貧困対策」事業、「環境」事業
「サイクル・エイド、ワークキャンプスタディツアー」事業
「災害被災者支援」事業、「ネットワーク・国内」事業
- 2014 年社員総会報告
- 海外プロジェクト 2014
- 寄贈井戸報告 井戸ができた村
- 新入会員ご紹介、領収報告
- 里子の笑顔、JAFS プラザ・ウォーカーソン
- 世界の友から、編集後記

◆119号 2014年 10月発行

- 表紙写真 東洋のモナリザ
- 巻頭言 タイ AFS の若者たちが日本で活動
- 第24回ネットワークセミナー開催 in Cambodia
- 第31回土と水と緑の学校
- 貧しさから抜け出すために！ 貧困対策事業
- 井戸ができた村
- 里子の笑顔、JAFS プラザ・ファミリグループ紹介
- 世界の友から、編集後記

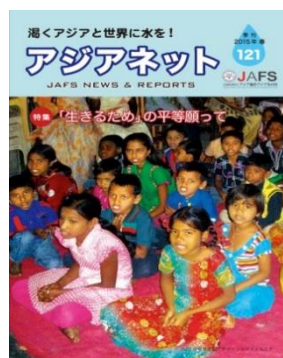
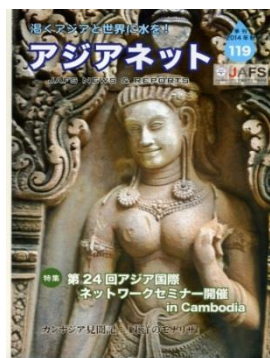
◆120号 2015年 1月

- 表紙写真 フィリピン パリパランの子どもたち
- 巻頭言 JAFS の変革・活動の活性化について
- チャリティコンサート開催
- サイクル・エイド支援事業
- アジアのネットワーク通信
- 特集 変わりゆくアジアの環境対策プロジェクト
- 寄贈井戸報告 井戸ができた村
- JAFS プラザ 国内活動
- JAFS 役員報告
- 国際ボランティア市民講座案内
- 里子の笑顔
- アジアの友から、編集後記

◆121号 2015年 3月

- 表紙写真 インドの子どもたち
- 巻頭言「助ける」から「助け合う」へ提携の強み生かそう
- アジアの仲間とともに タイ・インド会議
- フィリピン ストリートチルドレン
- フィリピン マングローブ植林ワークキャンプ
- ネパール 井戸建設ワークキャンプ

- アジアのネットワーク通信 ネパール・ベトナム
- 特集 安全な水を贈る JAFS の事例から
- 寄贈井戸報告 井戸ができた村
- JAFS プラザ国内活動
- ぞうすいの会・ウォーカーソン
- アジアの友から 編集後記



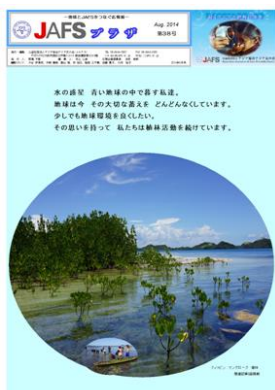
(2) JAFS プラザ

JAFS プラザは、本会の国内活動を中心に一般市民にも理解してもらうため発行して参りましたが 39 号を持って 2015 年1月からは「アジアネット」に統合し、読みやすく、きめ細かく本会活動の息吹を伝えられるように工夫して参ります。発行部数も 5,000 部と多く、会員以外の方にも読んで頂き、本会活動の理解と参加を呼びかけてまいります。

《発行実績:各号 2,500 部》

38号 2014年 8月

39号 2014年 10月



IV. 普及啓発事業

(3) ホームページ／メールマガジン

本会とイベントやニュースなどを随時更新した。また、コスモニケタン学園に派遣した酒井氏の現地の情報とニュース特集として掲載した。

<ホームページ> <http://jafs.or.jp>
<フェイスブック> <http://www.facebook.com/JAFS.NGO>
<メールマガジン> 合計5回発行

4. プロジェクト支援 (ファミリーグループ)

(1) ぞうすいの会

(山崎桃、坂本由子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康をみなおすとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。

毎月1回(年間11回※8月休み)開催で、アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。

継続することの大切さをあらためて実感でき、今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。

- 318回 4月8日 「フィリピン台風被災者支援の報告」
横山 浩平 20名参加
- 319回 5月13日 「フィリピン台風被災者復興支援の報告」
末永 雅典 12名参加
- 320回 6月10日 「フィリピン マングローブ植林ワークの報告」
法花 敏郎 13名参加
- 321回 7月8日 「インドの子どもたちの今」
小久保 愛海 16名参加
- 322回 9月9日 「ネパール支援の現状」
熱田 典子 13名参加
- 323回 10月7日 「カンボジアのマイクロクレジットの現状」
横山 浩平 15名参加
- 324回 11月11日 「インドの現地報告」
村上 公彦 18名参加
- 325回 12月9日 「カンボジアでの企業によるワークキャンプ」
横山 浩平 15名参加
- 326回 1月13日 「アジアユースサミット3.5 in ベトナム」
渡部 高明 13名参加
- 327回 2月10日 「ネパールの環境教育」
熱田 典子 10名参加
- 328回 3月10日 「インド チャイルドアカデミー報告」
有山 京子 14名参加

(2) お母さんの地球学校

(代表 小原純子)

1984年、JAFS主催の「地球資源を考える読書会」に参加した

母親が中心に、終了後も地球規模で考え勉強しようと、「国際婦人年10年」の最後の年の1985年5月12日の母の日に発足。危機状況にある自然の現状を知り、「土」「水」「緑」「人」を軸に、地球総合環境問題について、専門の研究者の講演を聞き、時にアジア各国の「お母さん」をお招きして、自然生態系の中でのバランスの取れた人間社会のありかたを学習。自然と人間が調和していく心を地球市民レベルで見つめて、次世代に伝えたいと希望。1996年1月28日には、同名タイトルの本『お母さんの地球学校』を発行。「お母さんの地球学校」主催の「緑のリサイクル運動」(牛乳パックの回収)は1985年の発足時より現在も続行中。

引き続き再開を予定しているが、講師の都合により一時休講。

(3) アジア井戸ばたサロン

(代表 山崎桃)

1990年「WINA2000」アジア国際女性会議が開催された。これを機にアジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動をはじめ、今年度も援助目標額を達成した。

小さな力でも積み重ねると大きな成果を生み出すということを含め言葉に、活動をつづけている。サロンに集まるメンバーも充実し、本年度も一歩一歩着実に歩み、手作り工芸品の製作など、おいに成果をあげた。作品の種類や点数も増加したので、各種イベントなどでの利用を願っているが、積極的な申し出がふえ、各地に作品を広めていただいていることに感謝している。

目的達成のために1992年4月に設立された「水がめ基金」から、本年度も、「JAFS里親の会」に昨年と同様に10万円を支援した。

<活動>

☆ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作
箸袋、季節のカード、香袋など(毎週火曜日午後1時から3時)。

☆各種文化交流会

- 1 2014年6月17日
・見学会：ボストン美術館浮世絵名品展「北斎」
(於 神戸市立博物館)
- 2 2014年12月18日
・研修会：ネパールを知る～インドの食文化～
(於：ネパール料理店「ネパリバンサ」)
- 3 2015年2月17日
・チャリティ食事会：アジアの子供たちのために
(於 JAFS事務局)

(4) JAFS ハルハロ・Fランチ

(橋本末子、天野澄子)

発展途上国における子どもの教育の大切さに着目して1992年10月に発足。ネパール、インド、フィリピンの3ヶ所の教育支援を継続。

主活動の「Fランチ」は発足当初は毎週金曜日に、2013年5月より月1回(第2金曜日)開催。2014年9月に最終回の「さよならFランチ」を開催し22年継続した「Fランチ」を終了。ハルハロは支援中の里子達が卒業するまで継続。

支援先

◆ラリット福祉センター(LAWEC) (ネパール、パタン市)
両親がいない、片親である、あるいは家庭が非常に貧しいなど

IV. 普及啓発事業

の理由で就学できない家庭の親子を面接して、困難な状況にある家庭の子どもを優先的に学校へ受け入れ、教科学習の他、健康チェックも行っているセンター。1988年に設立され、現在の生徒は幼稚園児～8年生まで。ハルハロは1993年以来、教師2人の給料支援を継続的に行ってきたが、2013年度から主活動の「Fランチ」縮小で教師1人の給料支援となった。

本年度は6月にハルハロスタッフがLAWECを訪問、先生や子ども達と交流し、近況レポートを「さよなら F ランチ」で報告。教師研修が行われ、教育の質の向上や学校環境の改善が見られた。本年度でLAWECの支援は終了とする。

◆日印友好学園コスモニケタン プライマリースクール (インド カルナータカ州)

1998年より学校支援開始。2002年より毎年JAFSアジア里親の会の里子6人の支援を継続してきたが、里子の卒業や転居、退学で2人の支援となる。

2013年1月コスモニケタンスクールバス資金を寄附。2014年6月に贈呈式が行われた。

近況や贈呈式の模様は「さよなら F ランチ」で報告を受けた。

◆フィリピン・マニラ ストリートチルドレン支援

JAFS ストリートチルドレン自立支援プロジェクト。2004年12月より支援開始。マニラ国鉄線路沿いスラム街に住んでいる子ども達(約100人)のための教育支援プログラム。2008年4月からJAFSアジア里親の会の里子6人の支援開始。現在、家族はマニラから車で3時間くらいのラグナ湖のほとりのパリパランに移転。

2015年2月に7年生になった3人の女子の報告を受けた。他の3人は転居などの事情により支援を終了。学業を続けている3人には卒業するまで応援。

活動

① 主活動「Fランチ」。

毎月第2金曜日のランチタイムに、国内外からのゲストの話(生活文化、環境問題、その他)を聞き、国際協力に不可欠な異文化を学びながら、スタッフ手作りの昼食を楽しむ。食材費の差額を教育支援に充てる。

② 9月11日(金) Fランチ最終回「さよなら F ランチ」を開催。

③ 11月30日(日) 南大阪教会ランチサービス

2014年度ハルハロ・Fランチ ゲスト

- ・日本語で記載(日本語でのお話)
- ・英語で記載(英語でのお話)

回数	日程	〈ゲスト氏名 (国・所属)〉
872回	4月11日	大本和子さん (JAFSボランティアスタッフ) 「ボランティア ～私にできること」
873回	5月9日	セルモ ロドリゲス メルセリノ氏 (ブラジル) 「ブラジルと日本で暮らして～異文化交流」
874回	6月13日	ネリ サラビア レクトラサン さん (フィリピン・パンダソ) 「フィリピン台風30号災害支援プロジェクト」 末松雅典氏 (JAFSスタッフ) 通訳
875回	7月11日 9月12日	台風のため延期 Fランチ最終回「さよなら F ランチ」

(5) アジア国際夏期学校 (AISS)

(代表 桑田 隆弘)

小学生から大人までを対象にした海外ワークキャンプ、アジア国際夏期学校 (Asia International Summer School : AISS) の参加者が帰国後も、国内で自主活動が続けている。ワークキャンプの企画や準備をその年のワーク参加者とともにやり、交流、支援活動を行ってきた。

(6) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 船戸康夫)

スリランカ現地提携団体 NGO「サルボダヤ」との絆を深め、農村開発運動を支援し活動の輪を広げることが目的とする。スリランカを知り、楽しむイベント・講座等を開催や、活動支援のためバザー等に出展し、様々なボランティア活動をおこなっている。

4月19日	総会	於：JAFS会議室
5月11日	東大阪ふれあいまつり出展	於：東大阪
5月19日	例会	於：JAFS
5月31日	春のJAFS住道バザー 出店	於：大東市
6月1日	スリランカ講座相談会	於：西宮北口
6月28日	第18回スリランカ講座 『おうちでできるアーユルヴェーダー』 講師：K.P.チャンドラ氏	於：JAFS会議室
8月30,31日	泉大津イベント 模擬店参加	
9月6,7,13,14	於：泉大津フェニックス	
10月20日	例会	於：JAFS
10月26日	秋のJAFS住道バザー 出店	於：大東市
11月20日	『世界平和を実現する文明の展望』参加 ゲスト：A.T.アリヤラトネ博士 於：キャンパスプラザ京都	
12月8日	活動相談会	於：JAFS会議室
1月22日	スリランカ講座相談会	於：ワーサナ
1月31日	第19回スリランカ講座 『スリランカ料理を楽しむ会』 講師：ラックスマン フェルナンド氏	
2月7、8日	ワンワールドフェスティバル 模擬店参加 於：扇町公園	
2月28日	第20回スリランカ講座『スリランカ料理教室』 講師：マドゥランガ グナセカラ氏 ラックスマン フェルナンド氏	
	於：クレオ大阪西	
3月17日	活動相談会	於：JAFS

Ⅳ. 普及啓発事業

(7) 日印友好学園支援会

(支援会会長 柏木道子)

2012年4月にコスモニケタン学園、パダトラ小学校を含む支援会が発足した。

1. 支援会発足 (5月23日)

2014年3月を持ってコスモニケタンの運営資金全額、送金の形態は終了。運営資金終了と共に日印友好学園育成会は解散となり、新たな支援会として発足。

①新たに、里子160名の里親探しに取り組み115名の里親が決まった。

②コスモニケタンのBSVIA代表が、プラナウからナンディーニに代わった。

③コスモニケタンに酒井氏を派遣(6月から9月末)、里子情報のレポートを送った頂いた。

④育成会としてPC2台を寄贈した。

今年度もSSLC(共通試験)の成績が良かった。上位3名はコスモニケタン生、全体としても近隣高校の中で1位だった。教師の教育に対してのモチベーションが高い理由として、富松理事によるSSLCの細部に亘る分析結果の報告を、毎年行い、教師会の前で報告、成績結果の理由を聞いていることが、モチベーションに繋がっているのだと思う。

2. 支援会開催 (6回開催)

2014/5/23, 9/1, 10/7, 11/11, 2015/1/24, 3/7

(8) JAFSネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩、書記 一瀬由起子)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とする。

活動のテーマは、「ネパールの子どもたちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(パイオガス建設ワークキャンプ)の自主計画を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月1回(第2土曜日17時～)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。

ネパールに対する継続支援として里親の会を通して、ピトゥリ村の元里子で身体障害をもつフルマヤさんの自立支援を実施。今年度の支援としてはチュニケル村ナウリンセカンダリースクール3階増設の1教室寄贈、現地小学生の環境セミナーの支援を行った。

ワークキャンプにて栄養指導のプログラムを導入するための教材を手作りで作成した。テキスト作りをはじめその案を作成中。

4月5日	例会・花見
4月12日	例会
5月10日	例会
5月17日	康平君&バグワティさん結婚おめでとうparty
5月30日	ソロプチミスト守口バザー チャリティー参加
6月7日	例会
7月12日	例会
8月22日	枚方まつり準備
8月23日	枚方まつり チャリティー参加
8月31日	泉大津参加
9月6日	泉大津参加
9月7日	泉大津参加

9月20日	例会
10月3日	枚方多文化フェスティバル準備
10月4日	枚方多文化フェスティバル チャリティー参加
11月2日	東大阪多国際フェスタ準備
11月3日	東大阪多国際フェスタ出店
11月8日	例会
12月6日	例会
1月17日	例会・新年会
2月14日	例会
2月22日	寝屋川バルーンフェスタ出店
3月14日	例会&懇親会 (モモparty)
随時	栄養プログラム教材作成

以上の活動により、今年はピトゥリ村の小学校ソーラー設置支援を行った。

(9) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。

飲食店出店や料理を通じた文化交流プログラム等を企画し、PAONとしてJAFSの海外プロジェクト支援、特に安全な飲料水の支援を目標に活動している。今までにスリランカ、ラオス、ミャンマー、カンボジア、バングラデシュへ5基の井戸を贈ることができた。

8月30、31日	泉大津イベント模擬店参加
9月6,7,13,14日	於: 泉大津フェニックス
各イベント前にて、会議を行い、協力体制を構築している。	

(10) JAFSビジネス交流会

(代表 茶谷良明)

発足以来13年経過した。重なる不況の連続で「商い」が大変困難な状況であるが、年2回のJAFSバザールには必ず出店をして何とか活動を継続している。イベント企画も含め、再起を模索中である。

<チャリティイベント参加>

2014年5月31日	JAFS チャリティバザール参加
2014年10月26日	JAFS チャリティバザール参加

(11) JAFSダーナーズクラブ

(代表幹事 小柳二郎)

ダーナーズクラブとは、現役時代に培った知識、経験人脈などの技能を活用して社会貢献しようとの思いで2005年に創設されたクラブである。『ダーナーズ』とは古代インドのサンスクリット語で「dhanā」(贈物、奉仕、喜捨の意)がヨーロッパ語圏に属することから英語に転じてdonation(寄付)や日本語の『旦那』の語源ともなった。村上公彦専務理事兼事務局長による命名である。

(主な活動状況)

- クラブ会員全員参加のもと毎月第2金曜日に定例会
- ネパール料理店「ネパリバンザ」でネパール文化の講話会

IV. 普及啓発事業

- を実施
- フィリピン、パンダン町障害者協会に「障害者雇用創出複合目的施設建設費」を寄附
- 10月淡路島南淡市黒潮フェスティバルにてアジアの子ども絵画展に協力
- JAFS チャリティバザー運営設営、人的支援「土と水緑」の学校運営協力。

4月11日	4月定例会(5名)	於: JAFS
5月9日	5月定例会(3名)	於: JAFS
9月12日	9月定例会(7名)	於: ネパバンザ
10月10日	10月定例会(6名)	於: JAFS
12月5日	12月定例会&忘年会(8名)	於: JAFS
2月13日	2月定例会(2名)	於: JAFS
3月13日	3月定例会(5名)	於: JAFS

(12) JAFSオアシス会(中国教育医療支援会)

(代表 青木美千代)

オアシス会はアジアの中に「理解と協力と連帯」の輪を拡げるという JAFS 基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。

シルクロードを通じて日本にもたらされたものを「文化交流」により見出し、日本文化の原点を身近に感じることで、私達の日常に根付いている文化を再認識し、それぞれが培ってきた伝統文化や精神を次の世代にバトンタッチできるよう、アジアの一員として未来に向けた活動を行う。

4月11日	劉偉ソロコンサート協力	於: クレオ大阪西
5月29日	活動相談会	於: ムカーム
7月25日	活動相談会	於: ムカーム
8月21日	アジア家庭料理教室	於: クレオ大阪西 ～中国新疆ウイグル自治区編～協力
8月30,31日	泉大津イベント 模擬店参加	
9月6,7,13,14日	於: 泉大津フェニックス	
3月3日	活動相談会	於: ムカーム

(13) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2014年度は、フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースにフィリピンから学生5名の奨学を行った。

(14) ネパール子ども夢基金

ネパールの子どもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通した成長を目指す子どもたちの教育支援。会員として支援者を募ると共に、8月及び12月末実施)における子ども環境セミナーを実施の支援を行った。

(15) ネパール地域医療支援会

(担当理事: 小原純子副会長/大谷タカ子理事)

ネパールの地域医療向上及び母子保健向上の支援活動を行ってきたスクテ支援会とチョータラ支援会を統合。ネパール農村エリアの医療向上プロジェクトをサポートする支援会。

シンドウパルチョーク郡ボテシパ村に水道パイプラインを設置することがきっかけで、現地の診療所増設および、産婦人科棟の設備支援に協力。この支援費収集法として、支援金募集以外にプルトップ回収を行った。

(16) アジア未来塾

アジアと世界の将来が、持続可能な文明であるための文明の原理を、「振り返れば未来」の立場で、アジア文明の中に求めるための勉強会。2014年度の活動は下記の通り。

- 第一回 4月26日(通算31回)
日韓関係を考える(呉善花、毎日論) 4名
- 第二回 9月6日(通算32回)
グローバル時代におけるアジアと日本
(黄文雄、世界から絶賛される日本人) 6名
- 第三回 10月11日(通算33回)
民族—その伝統と文化(中谷巖、日本の復元力) 5名
- 第四回 11月15日(通算34回)
現代日本の状況を考える(中谷巖、日本の復元力) 4名
- 第五回 12月15日(通算35回)
日本の文明力について(中谷巖、日本の復元力) 6名
- 第六回 1月24日(通算36回)
アジアと未来の若者(村上事務局長講演) 7名
- 第七回 3月31日(通算37回)
日本精神とは何か(内村鑑三、代表的日本人) 5名

(17) サイクル・エイド支援会

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与したり、環境にやさしい貴重な移動手段として、地域の福祉環境改善のために再生自転車を有効利用している。自転車を通じた国際交流の絆を深める目的を進めていくためにサイクル・エイド支援会を設立。様々なイベントでの広報活動や自転車を輸送するための協力を募っている。

5. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 山竹 継男)

事業期間 2014年4月1日～2015年3月31日

事業の内容

昨年度、本会唯一の資産である「美山楽舎」を中心とした活動を行った。前期、2階雨戸の補修を行ったが防錆処理を施していなかったため3月14日美山楽舎での常務理事会に合わせて防錆剤を購入塗布した。今後とも、保有財産活用事業を進め、地元との交流を深めていく。JAFSと地元との共催事業

3月: 第3回美山「土と水と緑の自然学校」

26日～29日

IV. 普及啓発事業

タイから大学生も参加、国際交流を図り有意義な日を過ごした。

5月：第15回総会

1. 自然環境保全事業

所有財産である「美山楽舎」を拠点として、地元の希少植物や生物の現状を視察。会員や一般市民の方も参加、地元の方の案内で蜚の棲息地を訪ねた。

5月：美山町下吉田整備ボランティア

6月：べにばな山芍薬見学会

べにばな山芍薬下草刈り

第11回淀川シジミ取り

淀川水系調査第1回座学

8月：和歌山第32回土と水と緑の学校

和歌山「よみがえれ森」調査

10月：美山桑田村開村式参加

三船さんと行く芦生の森視察

11月：美山平屋ふれあいウォーク

3月：美山熊壁地区行事参加

2. 保有財産活用事業

4月：タイ(メージョウ大学)美山楽舎で研修報告

6月：夏野菜収穫

10月：美山歌ボラ、ハンドベル発表、地元との交流

1月：大内地区常総会出席

2月：美山神谷雪まつり参加

3. 歴史環境事業

10月：奥庵堂祭参加

11月：美山ふるさとウォーク

美山ふるさとまつり

2月：二月堂お水取り松明竹送り参加

(2) グリーンベイ OSAKA

(代表 萩尾千里)

堺第7-3区共生の森において、以下の通り、「グリーンベイ森を育てる会(草刈り会)」と「第8回グリーンベイ植樹会」を開催しました。

(1) 「グリーンベイ森を育てる会(草刈り会)」

日時：5月25日(日)9時30分から13時30分まで

天気：好天

参加人数：総勢100名

(2) 「第8回グリーンベイ植樹会」

日時：11月30日(日)9時30分から13時30分まで

天気：好天

参加人数：総勢95名

植樹本数：30本(2種) その他、柿を数十個

植樹の苗木：

(落葉樹) ヤマザクラ(15本)

(常緑樹) クスノキ(15本) *本会の自己資金として。

(3) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表：萩尾千里、大阪グループ代表幹事：橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有

志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬かつ信頼される国(社会づくり)」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的の市民の会を目指している。発足は2006年12月

<大阪グループ会員 212名>

<フォーラム活動(会員議会/政策提言)>

1. 奉仕活動(各種ボランティア活動へ参画)

2. 自己啓発活動(自己研修・鍛錬など)

3. 健康増進活動

定例会：毎月第一日曜日 午後2:00~4:00

場 所：JAFS 会議室 *移動会場

<2014年度定例会>

4月 第58回「①憲法改正の要点 ②日本国民の民族意識再興の方向」10名

6月 第59回「日本国民の民族意識再興のために、どのような手を打つべきか!」8名

7月 第60回「日本国民の民族意識再興のために、どのような手を打つべきか!その2」11名

9月 第61回「日本国民の民族意識再興のために、どのような手を打つべきか!その3」8名

10月 第62回「日本国民の民族意識を取り戻すために! 具体的に取るべき方策は何か?」8名

11月 第63回「日本国民の民族意識を取り戻すための教育改革」6名

12月 第64回「日本国民の民族意識を取り戻すための教育改革! その2」7名

1月 第65回「①教育改革 ②集団的自衛権 ③特定機密保護法」8名

2月 第66回「①教育改革 ②本会の年間活動について」7名

3月 第67回「安倍総理大臣70周年総理談話への提言」6名

Ⅳ. 普及啓発事業



京都チャリティーコンサート



全体地区世話人会



第2エリアお花見懇親会



竹送りウォーカソン



神戸ぞうすいの会



枚方・寝屋川地区ウォーカソン

Ⅳ. 普及啓発事業

Ⅳ－B. 環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（１）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で巡り、自然体験をした。本年度も引き続き、新宮市からの協力を得て、東日本大震災の被災地である宮城県名取市からの子どもたち8名が参加しました。しかし今回、8日に開校しましたが翌、9日から台風11号の影響で一旦、高田中学校に参加者が避難。その後新宮市の指示で同日10時に新宮市浮島児童館に参加者・リーダー・本部ボランティア・スタッフ120名が避難致しました(詳細については後記)

開催趣旨

大自然の中での生活体験を通じ、自然の成り立ちや不思議を知り、人間を含む生態系の営みや自然を大切にすることを学び、次代を担う世代として、より豊かな心を持たせることを目的とします。

行事名 第31回土と水と緑の学校
実施期間 2014年8月8日(金)～13日(水)の5泊6日
(本部開設期間8月6日(水)～8月14日(木))
実施場所 和歌山県新宮市 高田地区一帯
本部:高田公民館
主催者名 新宮市
公益社団法人 アジア協会アジア友の会
一般財団法人 新熊野体験研修協会
協力者名 近畿労金、大阪帝塚山ライオンズクラブ
後援者名 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
和歌山県教育委員会、新宮市教育委員会
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 読売光と愛の事業団大阪支部
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

人数 参加者数(小学3年～中学3年) 57名
(大阪側20名・新宮側37名(名取市より参加8名を含む))
ジュニアリーダー数(高校生) 5名
リーダー数(大学生・社会人) 11名
本部ボランティア・関係者・スタッフ数 38名
タイ・メイジョウ大学関係者 9名
講師数 6名

土の日 栄養度の高い扶養土を山から取り、その中に住む昆虫やその他の生き物の観察や色や匂いなど色々な面から土について学習しました。
また、班ごとでクラフトや、自然体験ゲーム、川遊び、成果発表の準備などをおこないました。

水の日 水の大切さをその中に住む生物の観察を通して学びました。何十種類にも及ぶ川の生き物を採集し、それらの特性、特徴などを観察しました。また、カヌー体験で川の流れを知り、川で泳ぐ体験により全身で水を感じました。

緑の日 緑の働きや人々とのかかわりを、内賀野溪谷を歩いて

知りました。道中、昨年の台風12号での被害状況を目の当たりにし、自然の驚異を学びました。ハイキングの中で、草木や熊野地方特有の植物に触れ、緑の役割を学びました。また、テントでの宿泊を体験し、かまどでの火起こしやエコ自炊やドラム缶風呂を体験しました。

海の日 海に生きる多様な生物を採集し、生態を観察しました。海での磯観察では多種多様な生物に触れました。また、船でホエール・ウォッチングに出かけ、クジラの生態を学び、地域での取り組みについて考えました。特に今年は全班ともに多くのクジラやイルカが観察されました。

心の日 スライド写真を通じて、世界の自然やアジアの国々の生活の様子に思いをはせました。自分たちと同世代の子どもたちの生活や、アジアにおける水不足の現状、食糧事情、環境などを視覚を通して学びました。

【台風に襲われた第31回土と水と緑の学校】

6日の準備段階から台風情報を検討しつつ、新宮市と何度も協議のうえで8日の開校が決定されました。開校式の夜、9日早朝に新宮市より避難指示があるとの事で本部ボランティア・スタッフが準備をしていました。朝食後8時に先ず、高田にある高田中学校に参加者・リーダーが避難！再度10時に新宮市浮島児童館に避難命令が新宮市より指示により再度避難！何よりも安全を考え平成23年の紀伊半島大水害を教訓に速やかに移動しました。避難さきでも講師の先生方による臨時授業や自然災害や防災についても学びました

11日には台風も去り、避難解除となり全員、無事に高田に戻りました。

この間、新宮市関係者を始め、新宮市民の皆さん、講師の先生方、雲取温泉そして、地元高田の皆さんの温かいご協力を頂き、避難移動・避難先や解除後の高田での新宮市及び先生方の対応、そして何よりも保護者の皆様のご理解とご協力を含めて、全ての方々のお蔭と感謝しております。

今回の経験は参加者の子供たちには貴重な体験となりました。人を思う心、皆で協力することの大切さ、自然の力そしてありがたさを感じたことと思います。普段の家庭がどんなにも安心で、保護者の皆様や周囲に守られているかを身をもって体験致しました。

私たち、アジア協会の環境プログラム、環境教育に携わるものにとって、この土と水と緑の学校を柱に、普段から子供たちへの防災教育、自然災害に対する理解と研究、防災も含めて、青少年リーダーの育成など本当に課題はたくさんあり、緊急であることもしっかりと意識しないといけないところです。

自然環境が大きく変わりつつある地球そして日本の現状を知り、今こそ自然の大切さ、美しさ、自然と共に歩むことを活動の柱の中心に据えることも重要課題だと思います。

（２）美山 土と水と緑の自然学校

IV. 普及啓発事業

本プログラムの特徴は、「農村と都市の交流」である。自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通し、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にするものの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。

昨年の京都大洪水により、美山も被災地となり防災教育を通じた区同士の繋がりがますます必要となる中で、本事業は都市間交流を通して、区同士をつなぐ大きな役割を持っている。

開催趣旨

「農村と都市の交流」をテーマに、単なる自然体験ではなく、農村に暮らす人々との交流を通して身近にある自然と生活のつながりなどを学ぶことで、自然を大切にする心と仲間を思いやる気持ちを育てます。

行事名 第3回 美山「土と水と緑の自然学校」
実施期間 平成27年3月26日(木)～29日(日)
実施場所 京都府南丹市美山町大内地区
主催者名 公益社団法人アジア協会アジア友の会(JAFS)
共催者名 大内地区農村都市交流実行委員
関西ナショナルトラスト協会
後援者名 京都府南丹市・南丹市美山町平屋振興会
人数 参加者数...小学3年生～中学3年生...20名
ジュニアリーダー数(高校生)...3名
リーダー数(大学生・社会人)...4名
本部ボランティア・関係者・スタッフ数...約30名
タイ・メイジョウ大学関係者 5名

内容 白尾山登山・溪流釣り体験などを通して、自然の役割や大切さを学び、災害復旧作業体験では自然との共存について考えた。地域の方とのふれあいや郷土料理など、農村と都市の交流をした。

総評: 本事業も3年目となり、美山の人たちとの交流を重ねる毎にそこにある課題も多く見えてきた。本年度はその課題に取り組むために防災を通して地域間の繋がりをより深くしていくために取り組んだ。幸運にも今回は、タイからも大学生が参加することとなり、国際色豊かな事業となり、美山の人たちにも喜ばれた。それと同時に普段から行っている防災訓練などがいかされ、美山の人たちとの交流も真のものに近づいてきたと実感している。

(3) 各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク(インド、カンボジア、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている(大阪、吹田、寝屋川・枚方)。

◆国際グリーンスカウト大阪◆

(代表: 永井 大介)

定例会議 祝日を除く毎週水曜日 19:00～21:00 及び土曜日

活動内容 年間を通して「エコキャンプ」、京都府南丹市美山町にて農業体験を実施、集落支援活動を通じて、青少年環境教育活動及び海外支援活動

活動報告

4月12日 農業体験①こなし田、畔付け(美山町大内区「大内米作りの会」協力)
5月17日 農業体験②田植え(美山町大内区「大内米作りの会」協力)
5月31日 美山町下吉田区ボランティアワークに参加
6月8日 美山町内久保区ベニバナヤマシャクヤク整備参加
6月22日 音海区クリーンディ参加
7月6日 農業体験③ジャガイモ他収穫(大内サロン同時開催協力)
8月8日～13日 第30回土と水と緑の学校に参加(5泊6日)
9月21日 農業体験④稲刈り
11月2日～4日 第2回美山スタディキャンプ
3日 白尾山登山※一部「美山ふるさと祭り」協力
2015年2月8日 美山「神谷ふるさと雪祭り」参加、協力
3月26日～29日 第3回美山「土と水と緑の自然学校」開校
限界集落の現状から自分たちにどのような事が求められ出来るのかを検討し活動を今後の課題とします。

地方が主役プロジェクト

●繋がるプログラム

地方と都市をつなぐ 人と人をつなぐ 人と物をつなぐ
ネットワークを大切に人や目に見えないことも大切にする!

●学ぶプログラム

歴史・文化を学ぶ 農業や林業、漁業を学ぶ 未来を学ぶ
フィールドでも学びを重要とする。伝える事から伝える側へ!

●体験プログラム

生活を体験する 仕事を体験する 地球を体験する
知らないことを体験する。未来は経験と思考から生まれる!

○国内フルード(拠点とネットワークづくり)

- ・地方と地方、地方とアジアをつなぐプラットホームづくり
- ・食と農のつながりの研究と提言そして実施
- ・防災ネットワーク(地方と都市の相互扶助を形成する)

- 1) 新宮市及び高田地区
- 2) 南丹市美山町一帯(限界集落支援及びネットワーク)
- 3) 綾部市水源の里(農業移住体験プロジェクト)
- 4) 三田市須磨田地区(医療法人を中心とした集落づくり)
- 5) 赤穂郡上郡地区(獣害に強い集落づくり)どくだみ栽培
- 6) 岡山市山陽町(桃の里、再生プロジェクト)
- 7) 三重県信楽(土の水の自然学校)陶器制作

国際協力活動

26年度フィリピン里子支援

アジア各国のグリーンスカウトメンバーとの交流・協議を積極的に行う

Ⅳ. 普及啓発事業

◆国際グリーンスカウト吹田◆

(主なメンバー：杉原貴、雨森清忠、服部博、
濱野和也、早川直彦、越智久美子)

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっていこうというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を行っている。2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っている。2014年も引き続き、月一回の川清掃、夏のキャンプ、年数回吹田市内でキャンプを行った。

http://www.geocities.jp/greenscout_suita1/htmls/top.htm

<糸田川清掃→環境保全活動>

毎月一回、第一土曜日に30分ほど実施。
参加人数は平均6～8人。

実施日：4月5日、5月10日、6月7日、8月2日、
9月6日、10月4日、11月1日、12月6日、
1月17日、2月7日、3月7日

<無人島キャンプ(ぐわすと探検隊)→環境保全の啓蒙>

5月31～6月1日 事前キャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

7月19～21日 本番

於：瀬戸内海の無人島「友が島」

9月27～28日 キャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

12月13～14日 クリスマスキャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

3月21～22日 春のキャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

◆国際グリーンスカウト寝屋川・枚方◆

2006年11月に結成。今年度も引き続き第2エリア植林活動「北河内緑とふれあう会」に参加。行動を同じくした。



第31回土と水と緑の学校 開校式



第31回土と水と緑の学校 海の日の様子



ろうきんすまいるプロジェクト「平屋ウオーク」



都洪水被害による流木やゴミの撤去作業

IV. 普及啓発事業



由良川でクリーンアップ作業



美山土水での水路探検の様子



美山にて会員と集落の方と収穫作業(ジャガイモ)



白尾山の登山の様子



一年を通して農作業(種ジャガイモの植え付け)



美山土水緑の日(薪割りの様子)

V. 運営管理

V. 運営管理

V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第3回社員総会を下記の通り開催した。定款第16条の定めにより田中理事長が議長を代行し議事を進行した。現在の社員数256名の内、出席社員数195名（内書面評決者及び評決委任者135名を含む）であり、過半数に達し、総会は適法に成立していることを宣した。

日 時：2014年6月14日（土） 午後13時30分～15時

会 場：大阪科学技術センター 8階小ホール

議 案：I. 決議事項

第1号議案『議事録署名人の選出』の件

第2号議案「定款の変更の承認」の件

第3号議案「役員の選出」の件

第4号議案「2,013年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、同附属明細書及び財産目録承認」の件

II. 報告事項

① 2013年度事業報告並びに同附属明細書について

② 2014年度事業計画書について

③ 2014年度収支予算書について

上記の決議事項に関しては、異議なく承認された。

V-B. 役員一覧

役 職	氏 名	経 歴
会 長	萩尾 千里	大阪国際フォーラム会長
理 事 長	田中 久雄	(株) かんぼう 取締役会長
副 会 長	小原 純子	(一財) 大阪市男女共同参画のまち創生協会 名誉顧問・前理事長
	湯川 剛	(株) OSG コーポレーション 代表取締役会長
専務理事 事務局長	村上 公彦	日本基督教団 寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常務理事	富松 英二	元 三菱電機 (株) 通信機製作所 開発管理担当部長
常任理事	池田 直樹	あすなろ法律事務所 弁護士
	上野 孝一	寝屋川十字の園 施設長
	大麻 豊	(株) 風神企画 代表取締役
	大倉 達也	(株) 大倉設計事務所 代表取締役
	櫻井 紘哉	(株) OSG コーポレーション顧問 元三和銀行管財部長
	清水 英男	元 シャディ (株) 代表取締役社長・会長
	西田 貞之	(有) 西田興産 代表取締役
	橋口 高明	(株) エイメックストレイディング 社長
	法花 敏郎	元 朝日ビルディング社長
	吉田 俊朗	ユニチカ (株) 顧問

V. 運営管理

理 事	熱田 親熹	大阪経済法科大学 地域総合研究所客員教授
	石川 悦治	石川会計事務所 税理士
	大谷 タカコ	大谷助産院 院長
	沖田 文明	(特活) 関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
	桑村 壽子	天王寺英数学院 理事長
	近藤 隆	近藤病院 院長
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	篠原 勝弘	公益財団法人 CIESF 副理事長 元駐カンボジア特命全権大使
	土屋 菊男	元 関西学院高等部 教諭
	寺西 浩章	(宗) 家原寺 住職
	淵本 療子	NPO 法人エンジェルサポートアソシエーション副理事長
	藤原 正昭	行岡保健衛生学園 顧問
	廣田 典昭	パナソニックグループ労働組合連合会 中央執行委員長
	渡辺 瑠璃子	(株) 若竹寮 監査役
監 事	笠谷 正博	人権擁護委員 (法務大臣委嘱)
	柿島 裕	(株) PHP 研究所 直販普及本部参事

V. 運営管理

V-C. 理事会

本会の事業・活動は、理事会、常任理事会(月例理事会)及び各常置委員会によって管理・運営されている。2014年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

(議長:萩尾千里会長)

理事会: 5月、9月、12月、3月 (計4回開催)

常任理事会: 4月、7月、11月、2月、

(計4回開催)

原則として6、8、10、1月を除く毎月第4火曜日に実施。

V-D. 常置委員会

I. 公益目的事業I 開発支援事業

委員長: 大倉達也理事

委員: 沖田文明理事、大谷タカコ理事、渡邊瑠璃子理事

<事業内容>

1. 飲料水供給
2. 貧困子ども支援
3. 貧困対策
4. 環境保全
5. サイクル・エイド

開催日: 7月(2)、8月、10月、11月、12月、1月、
2月、3月 計9回実施。

II. 公益目的事業II 国際交流事業

委員長: 西田貞之理事

委員: 坂口久代理事、藤原正昭理事

<事業内容>

1. 人材育成・交流
2. ネットワーク推進

開催日: 6月、11月、3月 計3回実施

III. 公益目的事業III 生活支援事業

委員長: 橋口高明理事

委員: 寺西浩章理事

<事業内容>

1. 災害・復興支援
2. 生活支援

8月、12月2回、2015年2月

IV. 公益目的事業IV 普及啓発事業

委員長: 大麻豊理事

委員: 法花敏郎理事、清水英男理事

<事業内容>

1. 広報企画(機関紙編集)
2. 会員拡大
3. チャリティ企画

公IV事業は、活動内容において、それぞれ独立性が高いので事業項目別に担当理事を中心に委員会が開催された。

1. 広報企画(法花敏郎委員長)
アジアネット編集を中心に開催。

開催日: 7月、9月、10月、11月、2015年1月、
2月、3月

2. 会員拡大(清水英男委員長)

拡大と同時に、定着率を高めるために、会員満足度に力を入れた。

開催日: 9月、10月、11月、2015年1月

V. 法人管理部門

委員長: 櫻井紘哉理事

1. 総務担当 櫻井紘哉理事
2. 財務担当 上野孝一理事
3. 法務担当 池田直樹理事
4. 庶務担当委員 吉田俊朗理事
5. 法人賛助会幹事 櫻井紘哉理事
6. ガバナンス委員 富松英二常務理事
7. 業務統括・事務局 村上公彦専務理事

開催日: 原則として8月、1月を除き開催。

4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、
2015年2月、3月 計10回開催

【事業報告の附属明細書】

2014年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34 条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上